

令和7年度第2回川越市健康づくり推進協議会会議 次第

時 令和8年2月4日(水)

午後1時30分～

会 場 川越市保健所 2階大会議室

1 開 会

2 あいさつ

3 報 告

(1) 健康かわごえ推進プラン(第3次)の取組について(資料1)

(2) 大東地区市民の健康・食生活に関するアンケート調査の結果について(資料2)

4 議 事

(1) 第9章「自然に健康になれる環境づくり」における取組について(資料3)

(2) 各団体における取組等について

(3) その他

5 そ の 他

6 閉 会

令和7年度川越市健康づくり推進協議会 委員名簿

任期: 令和6年7月15日～令和8年7月14日

	所属団体等	役職名	氏名	備考
1	川越市医師会	会長	松本 吉郎	
2	川越市自治会連合会	副会長	村田 一男	
3	元埼玉医科大学	委員	宮山 徳司	
4	女子栄養大学	委員	西村 早苗	
5	明海大学	委員	深井 智子	
6	川越市校長会	委員	金井 進	
7	川越市歯科医師会	委員	鶴田 淳子	
8	川越市薬剤師会	委員	須田 弘子	
9	埼玉県歯科衛生士会川越支部	委員	舘 水晶	
10	川越市スポーツ協会	委員	三戸 まさみ	
11	川越市社会福祉協議会	委員	山田 美喜子	
12	川越市老人クラブ連合会	委員	本木 春男	
13	川越市保健推進員協議会	委員	長峰 す美子	
14	川越市食生活改善推進員協議会	委員	米原 民子	
15	川越市勤労者福祉サービスセンター	委員	松本 清一	
16	地域活動栄養士PFCの会	委員	志村 洋子	
17	川越市私立幼稚園・認定こども園協会	委員	森田 繁子	
18	川越市PTA連合会	委員	大澤 克哉	
19	健康づくりボランティアグループやまぶき21	委員	江尻 旬子	

(1) 健康かわごえ推進プラン（第3次）の取組について

① 食環境づくり推進事業の取組

<取組内容>

ア. 川越市健康づくり協力店

- ・令和7年度、新たに2店舗を認定
- ・「かわごえ健康サポートBOOK」を作成し、健康づくり協力店に設置



イ. 尿中ナトカリ比測定を活用した保健指導

- ・健康まつりやラジオ体操講習会等のイベント、川越総合運動公園利用者、健康づくり支援課主催の生活習慣病予防教室等で実施
- ・働き世代への取組として、1企業の健康診断時に実施
- ・12月末現在、7回370名に実施。2月にサンライフ川越にて実施予定

ウ. 協力企業との啓発事業等

- ・6月、市内コンビニエンスストア、スーパーマーケット等（61店舗）に、野菜プラス1皿を促す帯POPの設置を依頼
- ・5月、マミーマート神明町店と連携し、地場農産物の販売イベントにブースを設け、野菜摂取量増加や健康づくりに関する啓発を実施
- ・8月、丸広百貨店川越店と連携し、野菜販売イベントにおいてブースを設け、野菜摂取量増加や熱中症予防に関する啓発を実施
- ・8月、小さな旅川越温泉において、野菜摂取量増加の啓発と栄養相談を実施
(川越市保健推進員協議会・小さな旅川越温泉と共催)



② 啓発資料、媒体の作成について

<取組内容>

- ・ 広報のニュース欄に健康記事を掲載
- ・ 公共施設等での健康情報発信ブースの拡充



- ・ LINE アカウントにおける健康情報の登録誘導
- ・ 各事業での啓発活動
- ・ 市公式ホームページの充実（健康プラス+やプラン冊子記事等を順次掲載）

③ 地域・職域連携における保健事業の取組について

<取組内容>

【川越商工会議所との連携】

- ・ 川越商工会議所会報誌へ「健康づくりサポート事業」の紹介記事を掲載
- ・ 川越商工会議所での健康関連情報チラシの設置

④ 健康に関心の薄い層への働きかけ

<取組内容>

ア. 自立の世代ヘルスアップ事業

【迷走中】

- ・ 7月（ウェスタ川越）、10月（なぐわし公園 PiKOA）、12月（川越運動公園 総合体育館サブアリーナ）の年3回開催し、107組（214人）の親子が参加



【ウォーキングサッカー】

- ・ 3月に、包括連携協定を締結している明治安田生命、COEDO KAWAGOE F.C と共催で開催予定

イ. 市内小中学校 PTA 家庭教育学級との連携

【つながる健康レッスン】

- ・ 年 8 回実施し、小・中学生の保護者 128 人が参加



ウ. その他

【親子でいっしょにわくわく運動教室】

- ・ 8月（大東公民館）は 13 組（26 人）、
1月（東部地域ふれあいセンター）は 17 組（34 人）
の親子が参加
- ・ 今後は、3月（ウエスタ川越）で開催予定



【ファミリー歯科健診】

- ・ 8月（総合保健センター）、10月（ウエスタ川越）で実施し、51 人参加
- ・ 今後の予定は、3月（総合保健センター）に開催
- ・ 今年度より新規事業として実施したが、通常の歯科健診事業と比較すると、
20～40 歳代の若い世代の参加が多かった



大東地区市民の健康・食生活に関するアンケート調査

報告書



©川越市 2010

令和7年12月

川越市

調査の概要

川越市では、令和7年3月に「いつまでも いきいきと 健やかに暮らせるまち 小江戸川越」をスローガンに、健康寿命の延伸を目指して「健康かわごえ推進プラン（第3次）」を策定し、健康づくりの取組を推進しています。

健康寿命延伸のため、健康課題である「高血圧症」「糖尿病」「脂質異常症」等の生活習慣病の予防対策に取り組んでいます。生活習慣病を予防するためには若いうちからの取り組みが必要であり、特に自分の自由時間を確保できない働き世代や子育て世代の健康に関心の薄い層に対する取り組みが必要であると考えられます。

令和4年度より取組を進めている、市民が健康づくりに関する正しい情報と適切な食品を入手しやすい環境を整備する「食環境づくり推進事業」について、令和4年9月に、調査時の現状と地域の実態把握を行うことを目的とし、大東地区をモデル地区としてアンケート調査を実施しました。その後実施した様々な食環境整備の取組の効果を始めとする実態把握を行い、今後のより良い取組に繋げることを目的とし、健康・食生活に関するアンケート調査を下記のとおり実施しました。

1. **調査目的** 食環境づくり推進事業の取組の効果と実態把握を行い、今後のより良い取組に繋げる。
2. **調査期間** 令和7年7月16日（水）～令和7年8月12日（火）
3. **調査対象** ①大東地区在住20歳から69歳の男女500人（無作為抽出）
②大東地区小・中学校保護者及び市立大東保育園保護者
(チラシ配布数 2,830 枚)
4. **調査方法** ①郵送配布・郵送回収またはオンライン回答
②小・中学校及び保育園へチラシ直接配布・オンライン回答
5. **回答数** 200件（郵送回答93件、オンライン回答107件）
6. **調査項目** ・健康への意識、取組み
・朝食摂取
・栄養バランスのとれた食事摂取
・野菜摂取
・食塩摂取
・食生活への意識
・POPによる周知啓発効果
・尿中ナトリウム比測定の認知度と意欲
・「お手軽野菜レシピ」の認知度

- ・健康情報の啓発効果
- ・川越市健康づくり協力店
- ・商品の選択
- ・食育情報の配信
- ・健康づくりに関する市への要望
- ・基本的な属性

7. この報告書における調査結果の見方

- ・本報告書では、回答すべき箇所が回答されていないものは「無回答」として扱います。
- ・比率はすべて百分率(%)で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しているため、合計が100%にならない場合があります。
- ・複数回答については、回答者数を基数として百分率(%)で示しています。したがって、合計値は100%にならない場合があります。
- ・グラフの結果比較は、令和4年度「大東地区市民の健康・食生活に関するアンケート調査報告書」、令和5年度「川越市民の健康について アンケート調査結果報告書」より、結果を引用しています。

8. その他

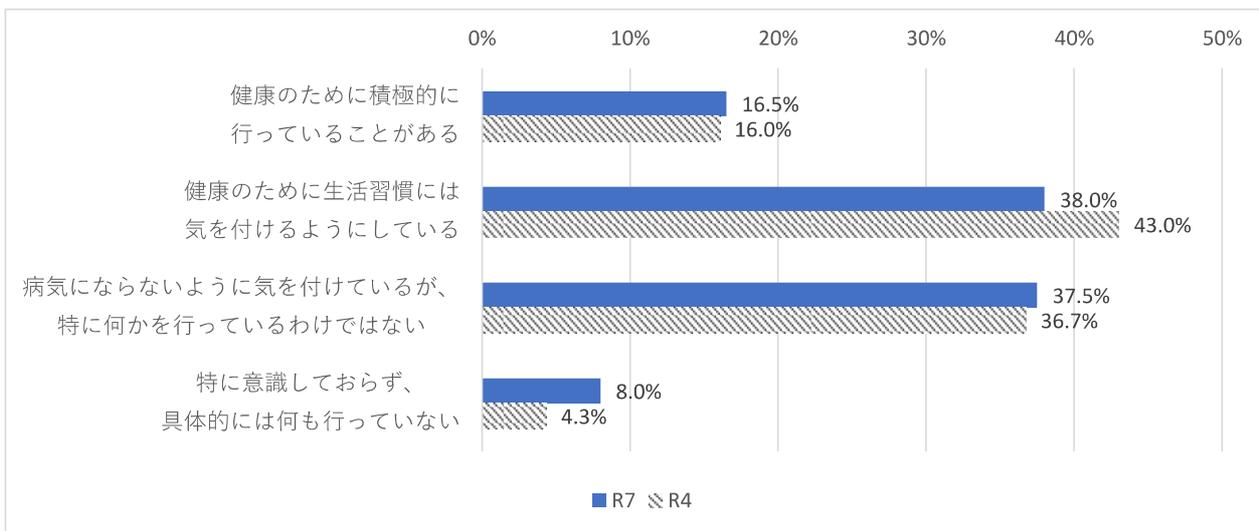
- ・本アンケート調査の結果は、事業評価の参考として活用します。

健康への意識、取組

問 1 - 1 普段から健康に気を付けるように意識していますか。(○は1つ)

「健康のために生活習慣には気を付けるようにしている」が38.0%と最も多く、「病気にならないように気を付けているが、特に何かを行っているわけではない」が次いで37.5%となっています。

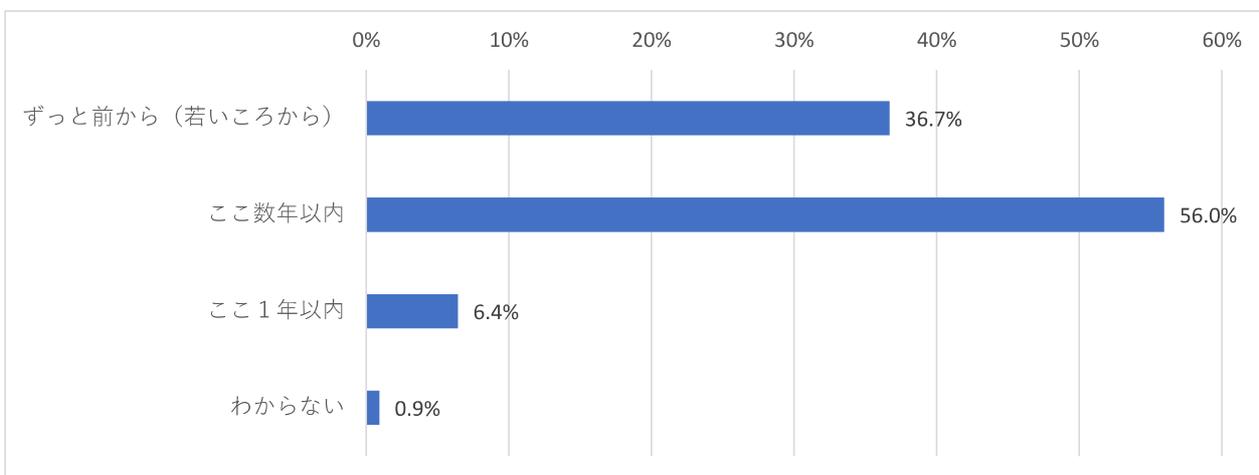
健康や病気について意識している人は92.0%となっています。



【問 1 - 1 で「健康のために積極的にしていることがある」または「健康のために生活習慣には気を付けるようにしている」とお答えの方】

問 1 - 2 健康づくりの取組をはじめたのはいつ頃からですか。(○は1つ)

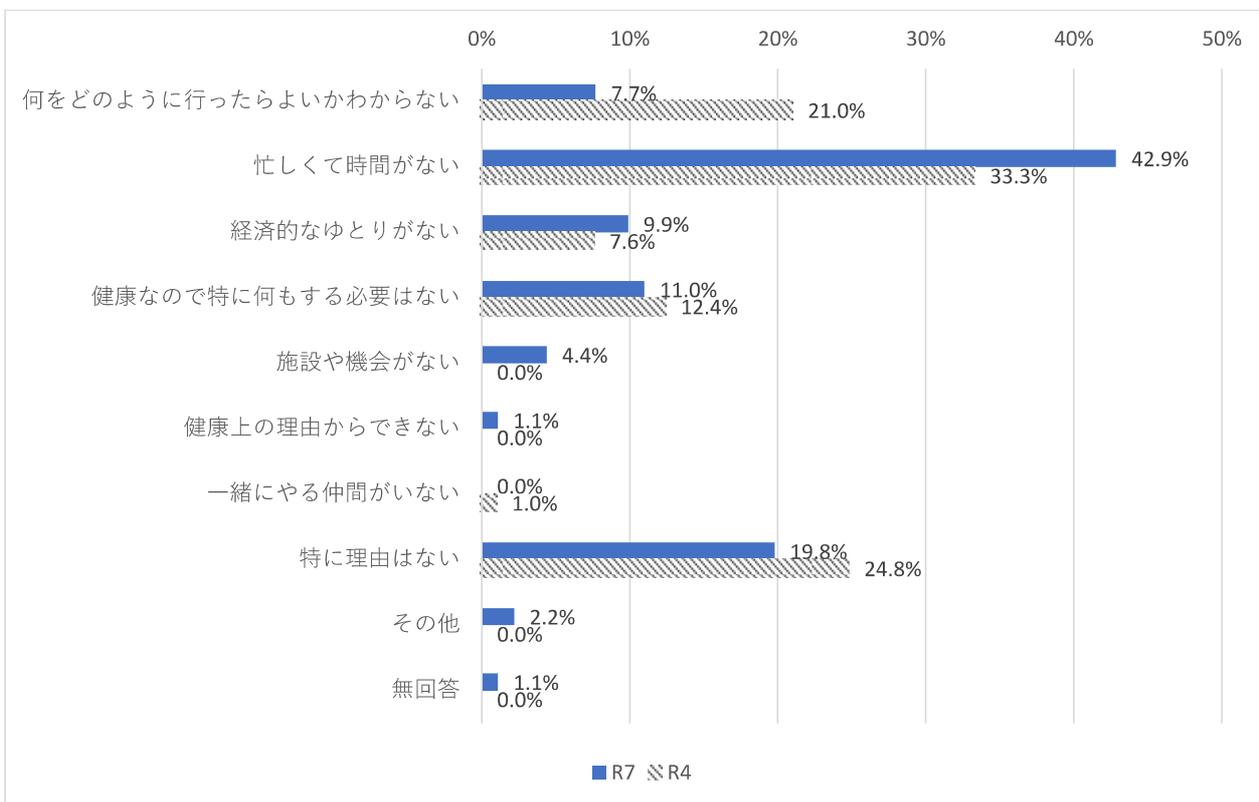
「ここ数年以内」が56.0%と最も多く、次いで「ずっと前から（若いころから）」が36.7%となっています。



【問1-1で「病気になるように気を付けているが、特に何かを行っているわけではない」または「特に意識しておらず、具体的には何も行ってない」とお答えの方】

問1-3 健康のために、特に何も行ってない理由は何ですか。(〇は1つ)

「忙しくて時間がない」が42.9%と最も多く、次いで「特に理由はない」が19.8%、「健康なので特に何もする必要はない」が11.0%となっています。



その他の意見
 ・病気があがるが、定期検査で意識はしている ・めんどくさい

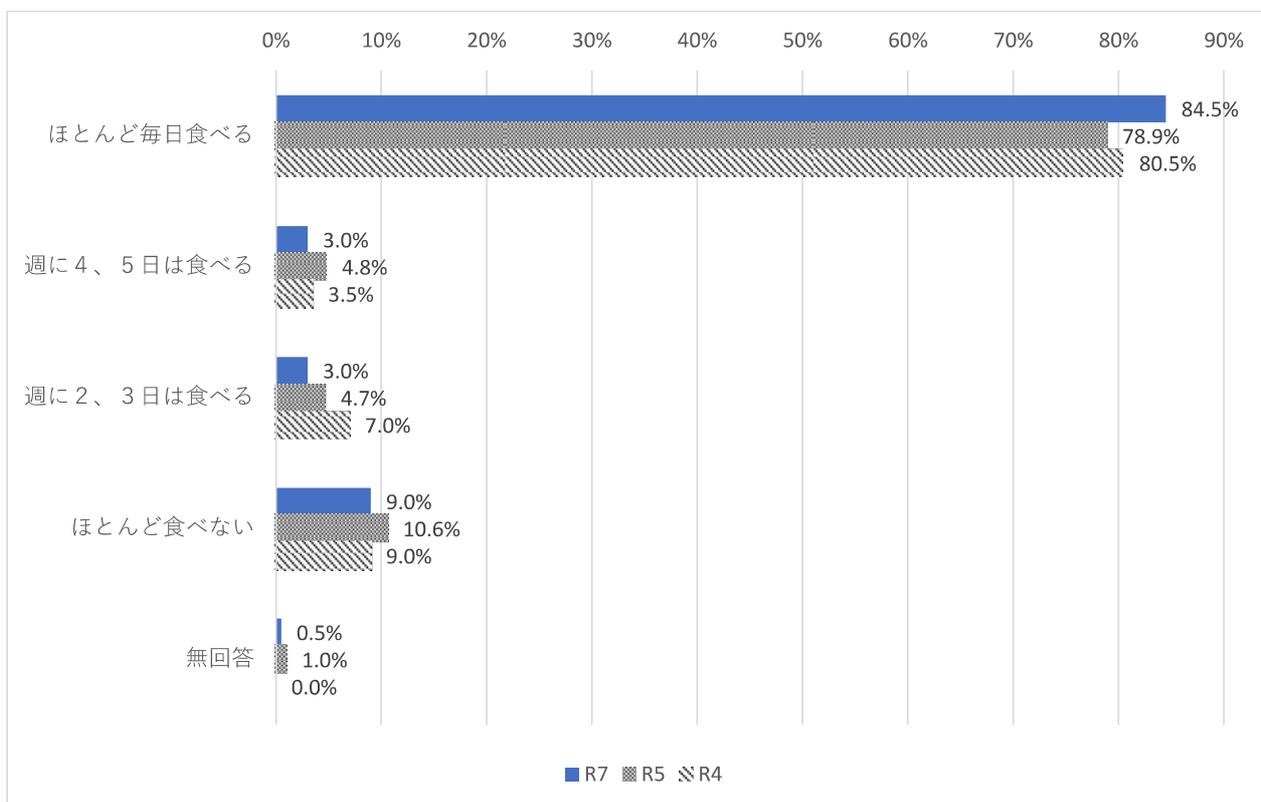
【考察／課題】

- 令和4年度に実施した「大東地区市民の健康・食生活に関するアンケート調査」結果と比較すると健康や病気について意識している人の割合は9割以上でほぼ変化なく、自身が健康でありたいと望まれている方が多い結果となりました。しかし、20代～40代の半数以上は健康のための取組を行っていないと回答しています。健康に気を付けているが、「忙しくて時間がない」と回答している人は増加し、自分のための時間を確保できない人に対して、時間がなくても始めやすい取組を多方面から探し、周知していく必要があります。
- 健康について意識している人は「ここ数年以内に取組をはじめた人」が半数以上で、ここ数年以内に意識するきっかけとなった出来事があったのではないかと考えられます。そこで、現在意識していない人に向けて、意識するきっかけづくりとなる取組やそれを継続していくための支援を考えていく必要があります。

朝食摂取

問2 朝食は食べますか。(○は1つ)

「ほとんど毎日食べる」が84.5%と最も多く、「週に4、5日は食べる」を合わせた『食べる』の割合は87.5%、「ほとんど食べない」、「週に2、3日は食べる」を合わせた『食べない』割合は12.0%となっています。



【考察／課題】

- 令和4年度のアンケート結果、令和5年度に実施した「川越市民の健康についてのアンケート調査」結果と比較すると「ほとんど毎日食べる」と回答した人はわずかに増加しました。
- 「ほとんど食べない」、「週に2、3日は食べる」を合わせた『食べない』と回答した人は20～40代の健康に関心の薄い層が多く、健康意識と同様に「忙しくて時間がない」ことが理由で朝食欠食につながっている人も多いのではないかと考えられます。健康に関心の薄い層に向けたアプローチ方法の検討が必要です。
- 朝食は、1日に必要な栄養素を効率よく摂取するためにも重要です。朝食の重要性を周知啓発し朝食欠食する人の割合を減らすとともに、欠食の原因となるものを無くしていくための取組やアプローチの方法について考えていく必要があります。
- 忙しい人でも簡単に朝食が食べられるよう、朝食のコツやメニューの紹介など普及啓発を図っていく必要があります。また、企業等と連携し、朝食を食べる習慣がある人を増やしていく取組を推進していく必要があると考えます。

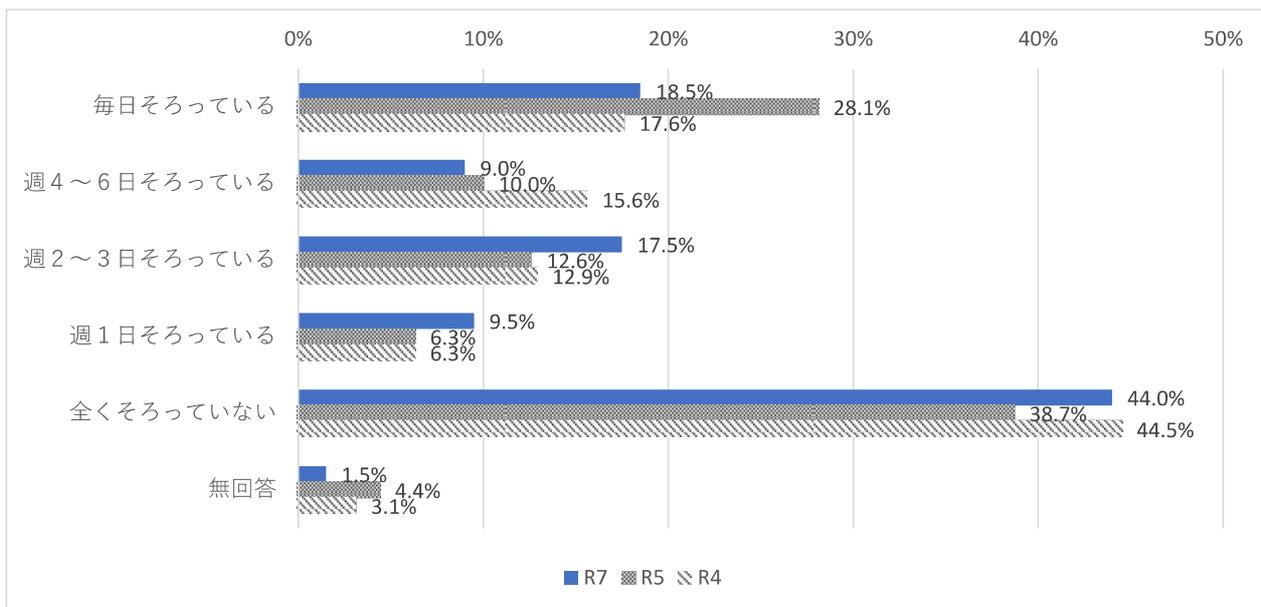
栄養バランスのとれた食事摂取

問3 それぞれの食事①朝食・②昼食・③夕食に主食・主菜・副菜がそろっていますか。

(〇はそれぞれ1つ)

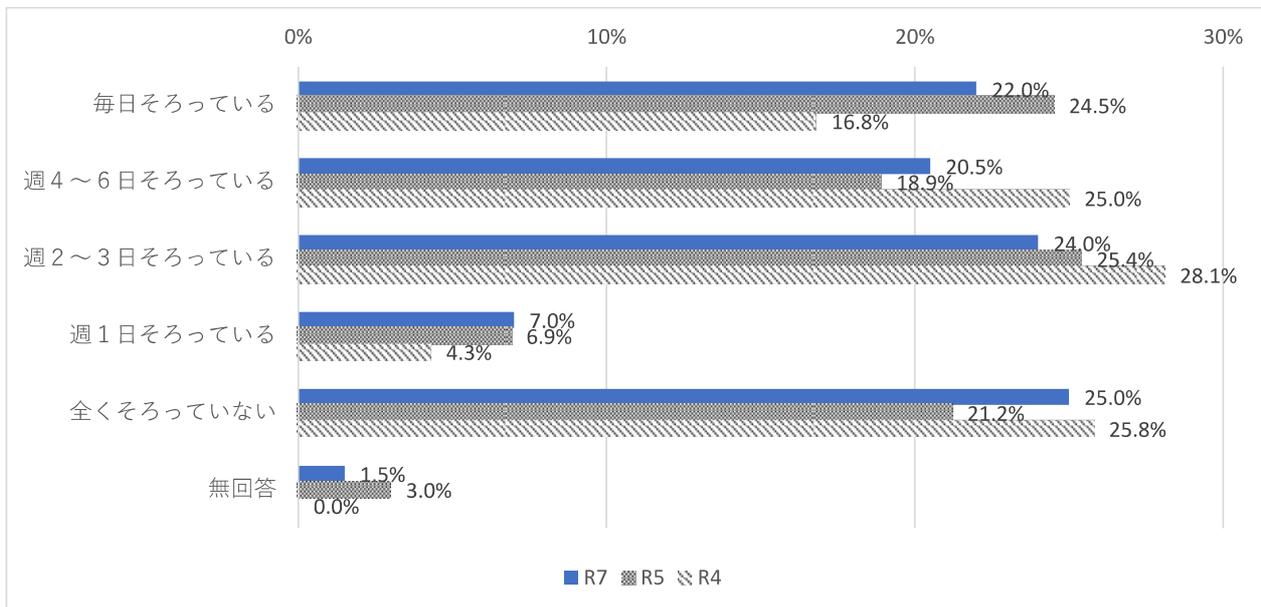
①朝食

「全くそろっていない」が44.0%と最も多く、次いで「毎日そろっている」が18.5%、「週2～3日そろっている」が17.5%となっています。「毎日そろっている」、「週4～6日そろっている」を合わせた『そろっている』が27.5%、「週2～3日そろっている」、「週1日そろっている」、「全くそろっていない」を合わせた『そろっていない』は、71.0%となっています。



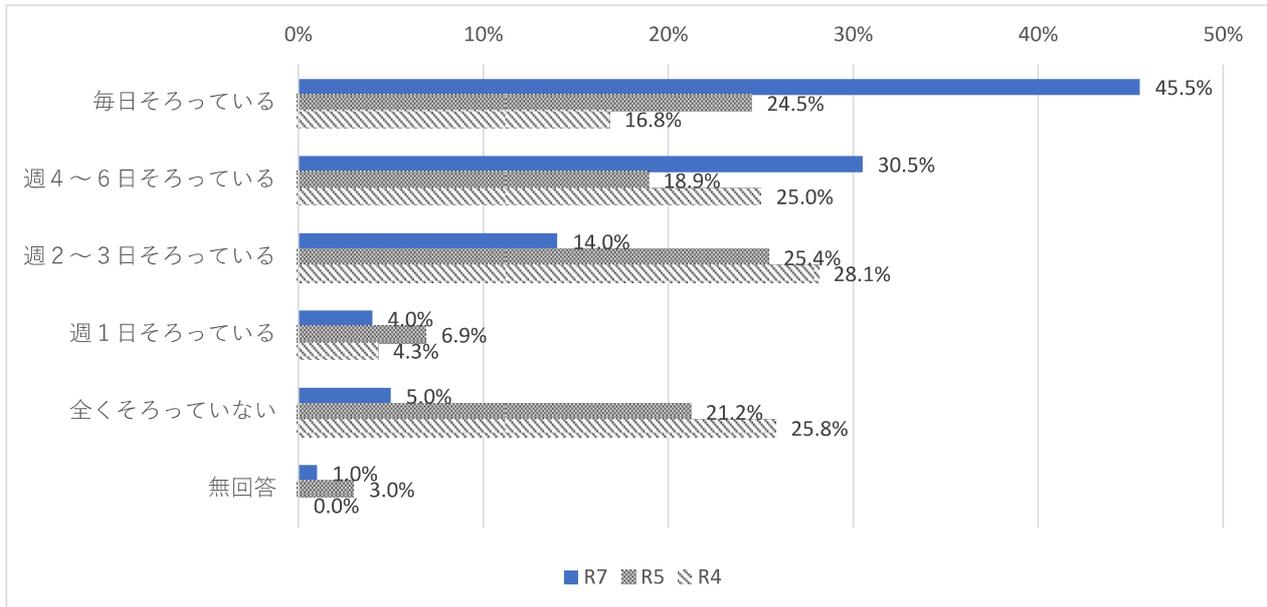
②昼食

「全くそろっていない」が25.0%と最も多く、次いで「週2～3日そろっている」が24.0%、「毎日そろっている」が22.0%となっています。「毎日そろっている」、「週4～6日そろっている」を合わせた『そろっている』は42.5%、「週2～3日そろっている」、「週1日そろっている」、「全くそろっていない」を合わせた『そろっていない』が56.0%となっています。



③夕食

「毎日そろっている」が45.5%と最も高く、次いで「週4～6日そろっている」が30.5%、「週2～3日そろっている」が14.0%となっています。「毎日そろっている」、「週4～6日そろっている」を合わせた『そろっている』が76.0%、「週2～3日そろっている」、「週1日そろっている」、「全くそろっていない」を合わせた『そろっていない』は23.0%となっています。



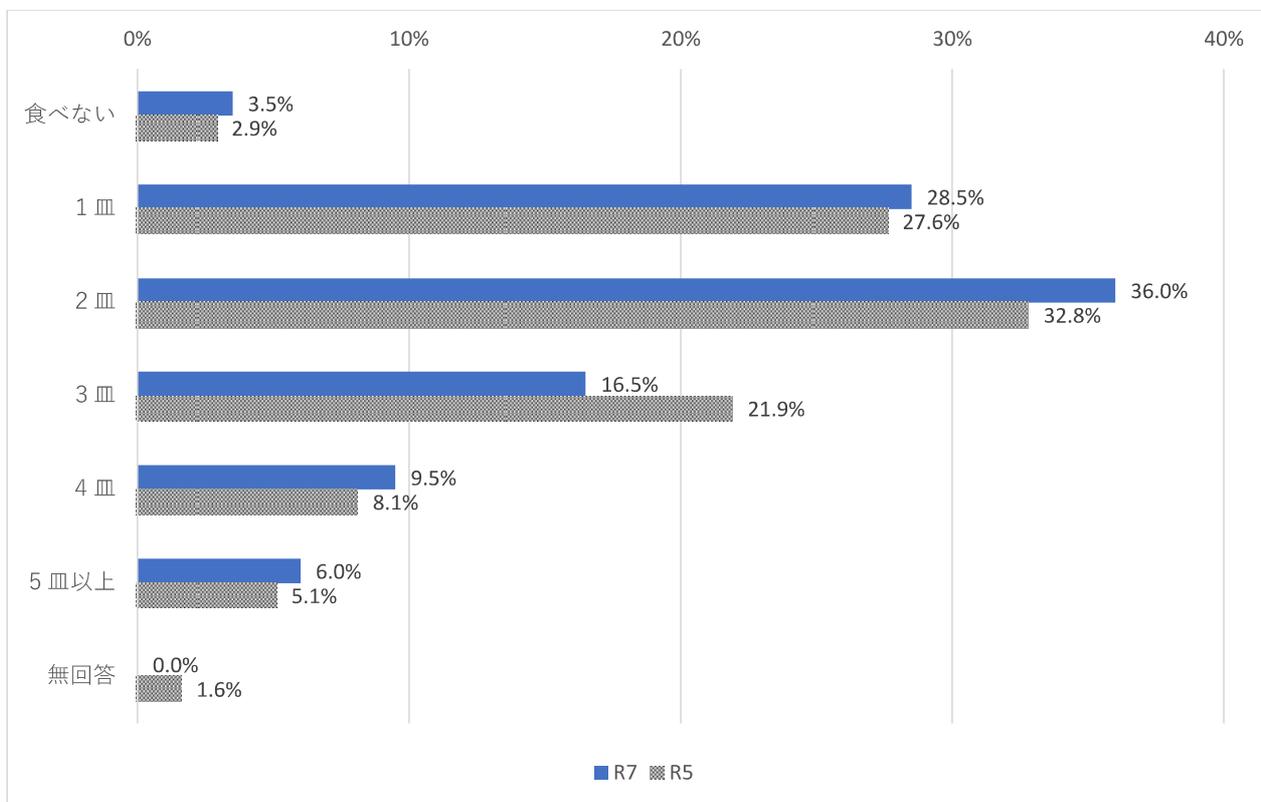
【考察／課題】

- 朝食では『そろっている』と回答した人は27.5%でした。特に朝は時間がない人が多く、主食・主菜・副菜をそろえることが難しいため、昼食・夕食よりも『そろっている』と回答した人が少ないと考えられます。
- 昼食は、朝食と比較すると『そろっている』と回答した人の割合は高いものの、夕食と比較すると低い結果となりました。
- 夕食では、朝食や昼食に比べて時間があること、自宅で食べる人が多いことが予想されるため、『そろっている』と回答した人が76.0%と高い割合であったと考えられます。また、令和4年度、令和5年度のアンケート結果と比較すると、『そろっている』と回答した人は30%以上増加し、主食・主菜・副菜をそろえることの重要性について認知されつつあると考えられます。
- 朝食、昼食が『そろっている』人の割合を増加するために、簡単に揃えられるようなコツやメニューなどを考え、様々なアプローチをしていく必要があります。また、昼食は家族単位ではなく個人で摂ることが多いため、朝食・夕食に比べて内容を変えやすく、介入しやすいと考えられます。社員食堂改善等の取組を進めることで、『そろっている』の割合を増やしていくことができると考えられます。

野菜摂取

問4 野菜の入った料理を1日に平均何皿食べますか（○は1つ）

「2皿」が36.0%と最も多く、次いで「1皿」が28.5%となっています。「3皿」以上食べている人の割合は合わせて32.0%となっています。



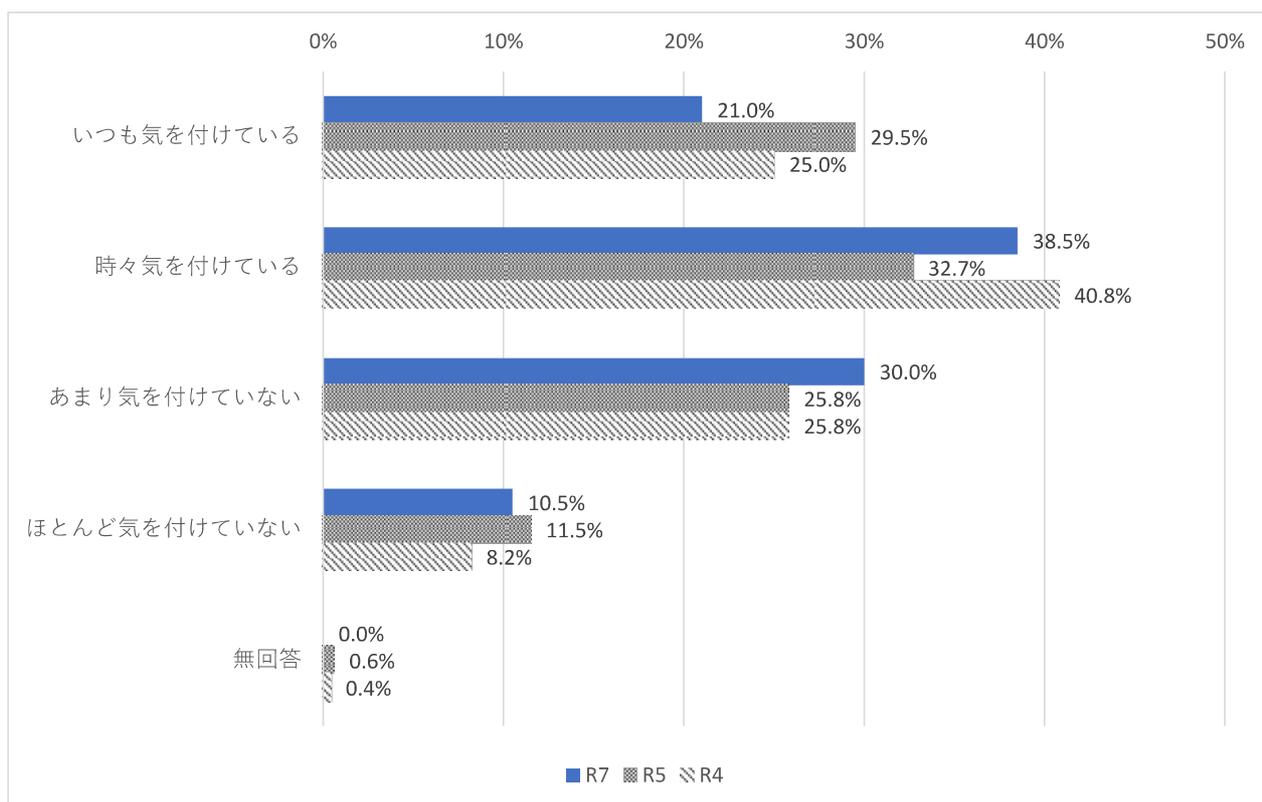
【考察／課題】

- 野菜摂取量の平均値は「2.2皿」でした。
今回の結果、令和5年度のアンケート結果はともに「2皿」と回答した人が1番多い結果となりました。
- 1日の目標量である350g以上の野菜摂取のためには今後も引き続き、野菜の必要性や食生活改善への取組を継続・拡大していく必要があります。

食塩摂取

問5 食塩の摂取量について気を付けていますか（○は1つ）

「時々気を付けている」が38.5%と最も多く、次いで「あまり気を付けていない」が30.0%、「いつも気を付けている」が21.0%となっています。「いつも気を付けている」、「時々気を付けている」を合わせた『気を付けている』は59.5%、「あまり気を付けていない」、「ほとんど気を付けていない」を合わせた『気を付けていない』は40.5%となっています。



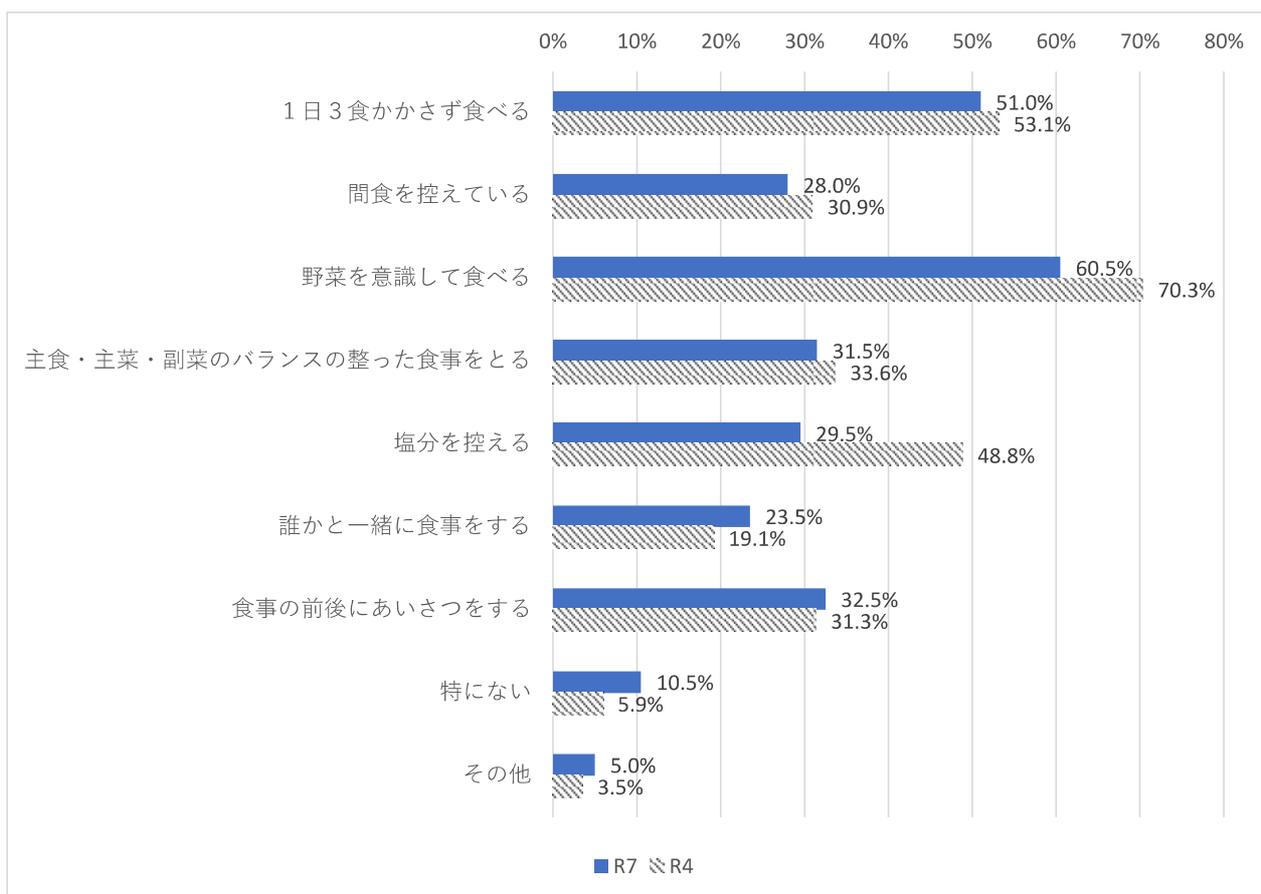
【考察／課題】

- 健康かわごえ推進プラン（第3次）における行動目標値「食塩の摂取量について気を付けている人の割合が67%以上」に対し、本調査で『気を付けている』人の割合は59.5%でした。
- 食塩摂取の現状と減塩の必要性については認知されてきていると感じますが、未だ自身の生活の中で意識している人は6割程度であり、令和4年度、令和5年度のアンケート結果と比較して『意識している』と回答した人はわずかに減少しました。食塩の過剰摂取による健康への影響について周知し、時間がない中でも無理なく続けやすい取組を考えていくことが必要であると考えます。

食生活への意識

問6 食生活について、気を付けている事はありますか。(〇はいくつでも)

「野菜を意識して食べる」が60.5%と最も多く、次いで「1日3食かかさず食べる」が51.0%、「食事の前後にあいさつをする」が32.5%、「主食・主菜・副菜のバランスの整った食事を摂る」が31.5%となっています。



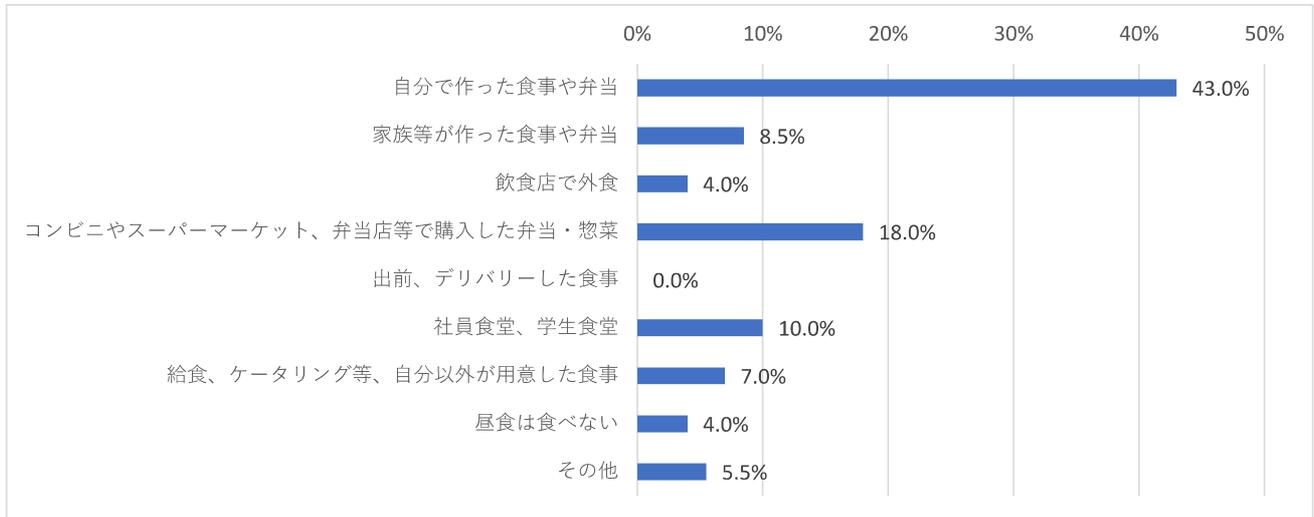
その他の意見

- ・気付いたときに野菜をとる
- ・酒類は取らない
- ・特定の食材をとるようにしている(2)
- ・インスタントや市販の惣菜はなるべく使わない
- ・興味がない
- ・コレステロールに気を付ける
- ・たんぱく質をとる(2)
- ・食材、添加物に気を配る
- ・食べ過ぎない

問7 昼食についてお伺いします。普段（平日）は、どのような昼食をとっていますか。

（○は1つ）

「自分で作った食事や弁当」が43.0%と最も多く、次いで「コンビニやスーパーマーケット、弁当店等で購入した弁当・惣菜」が18.0%、「社員食堂、学生食堂」が10.0%となっています。

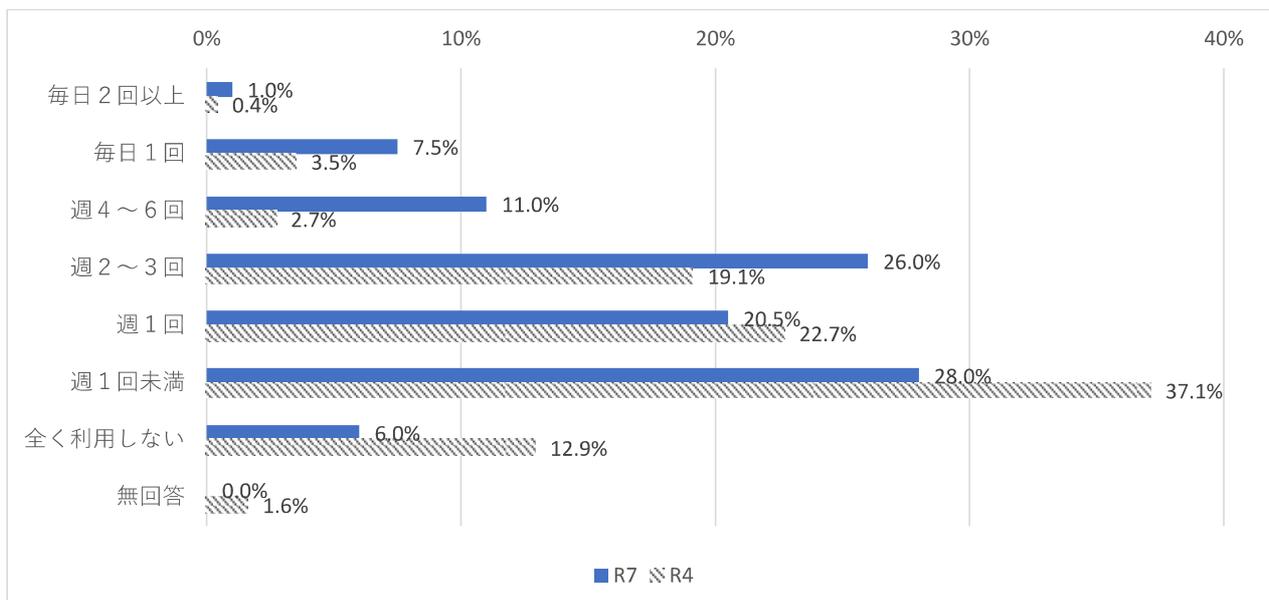


その他の意見

- ・栄養補助食品のみ
- ・菓子パン・総菜パン（4）
- ・カップラーメン
- ・日によって違う（4）
- ・職場の従食
- ・残り物
- ・忙しく食べられないときがある

問8 自炊以外の食事（外食、弁当や惣菜、フードデリバリーサービス等）をとる頻度はどのくらいですか。（○は1つ）

「週1回未満」が28.0%と最も多く、次いで「週2～3回」が26.0%、「週1回」が20.5%となっています。



【考察／課題】

- 89.5%の方が、食生活について気を付けて生活していることがわかります。
- 「野菜を意識して食べる」「1日3食かかさず食べる」と回答した人は5割を超えていますが、「主食・主菜・副菜のバランスの整った食事をとる」と回答した人は3割程度でした。食事をとることや野菜について意識することは定着してきましたが、食事のバランスについて意識する人は食事や野菜摂取ほど多くはないため、野菜だけでなく、たんぱく質や炭水化物等バランスよく食べることの重要性について周知啓発を推進していく必要があると考えます。
- 昼食は51.5%が持参した食事や弁当を食べていることがわかります。
次いで「コンビニやスーパーマーケット、弁当店で購入した弁当・惣菜」と回答した人が18.0%と多く、市内のコンビニやスーパーマーケットなどと連携し、健康弁当販売等の食環境整備を推進していくことで食生活への意識を高めていけると考えられます。
また、社員食堂、学生食堂と利用する人も一定数いることから、食堂改善等の取組についても進めていく必要があると考えます。
- 自炊以外の食事をする頻度は、54.5%の人が週1回以下と回答し、30～50代の働き世代で週2回以上の利用が多い結果でした。仕事や子育て等で食事を準備する時間がなく、外食やフードデリバリーを利用する機会が多いと考えられます。自炊以外の食事でも、選ぶ時のポイントなどをわかりやすくまとめ、働き世代にしっかり届くよう周知啓発していくことが重要です。

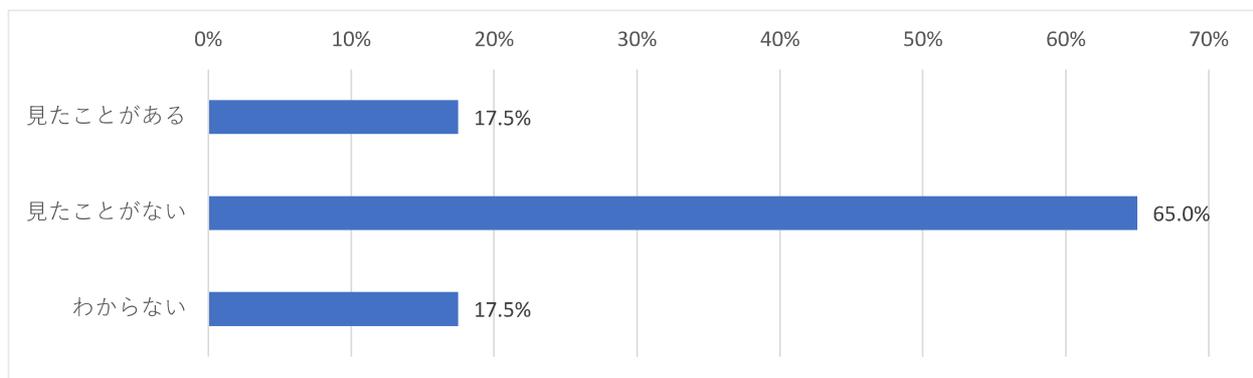
POPによる周知啓発効果

問9-1 下記POPを見たことはありますか。

(コンビニエンスストア、スーパーマーケット等の商品棚に設置)

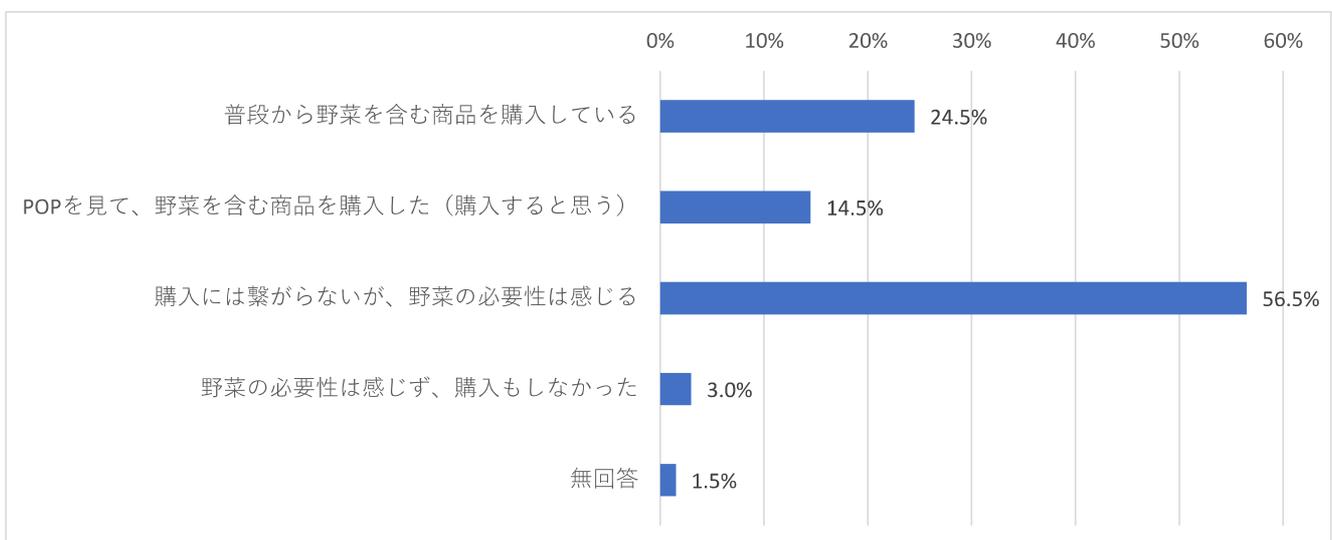


「見たことがない」が65.0%と最も多く、「見たことがある」、「わからない」が17.5%で同値でした。



問9-2 POPの設置は、購買行動に影響がありますか。(○は1つ)

「購入には繋がらないが、野菜の必要性を感じる」が56.5%と最も多く、次いで「普段から野菜を含む商品を購入している」が24.5%、「POPを見て、野菜を含む商品を購入した(購入すると思う)」が14.5%となっています。



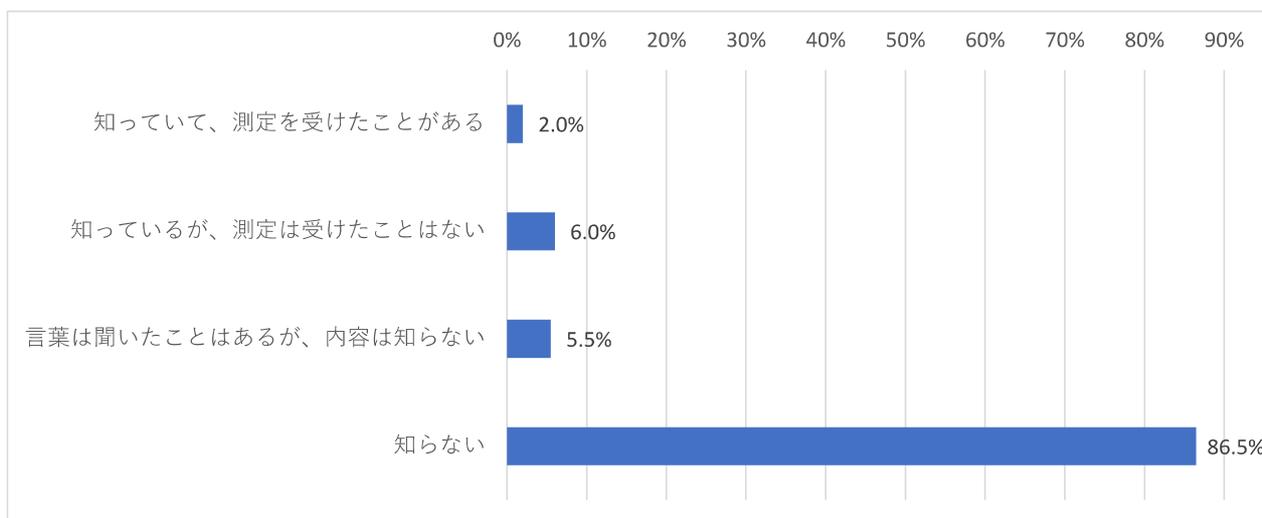
【考察／課題】

- POPを「見たことがある」と回答した割合は約20%でした。POPの配置場所やデザイン等を見直すことで視認性を高め、消費者の目に留まりやすくするとともに、今後はこれまで協力依頼をしていなかったスーパーマーケット、コンビニ等にも設置を依頼するなど、更なる認知度向上に努めます。
- 「購入には繋がらないが、野菜の必要性を感じる」「POPを見て、野菜を含む商品を購入した（購入すると思う）」あわせて71.0%であることから、野菜を摂ることの必要性を周知することについては十分効果があったことがわかります。今後は、より購買意欲の向上につながるような取り組みとなるよう工夫をすることが求められます。
- 「普段から野菜を含む商品を購入している」が24.5%であることから、一定の消費者は既に野菜を意識した購買行動をとっていることがわかります。異なる消費者層にも訴求できるようなメッセージを考慮する必要があります。

尿中ナトリウム比測定認知度と意欲

問10-1 「尿中ナトリウム比測定」を知っていますか。(○は1つ)

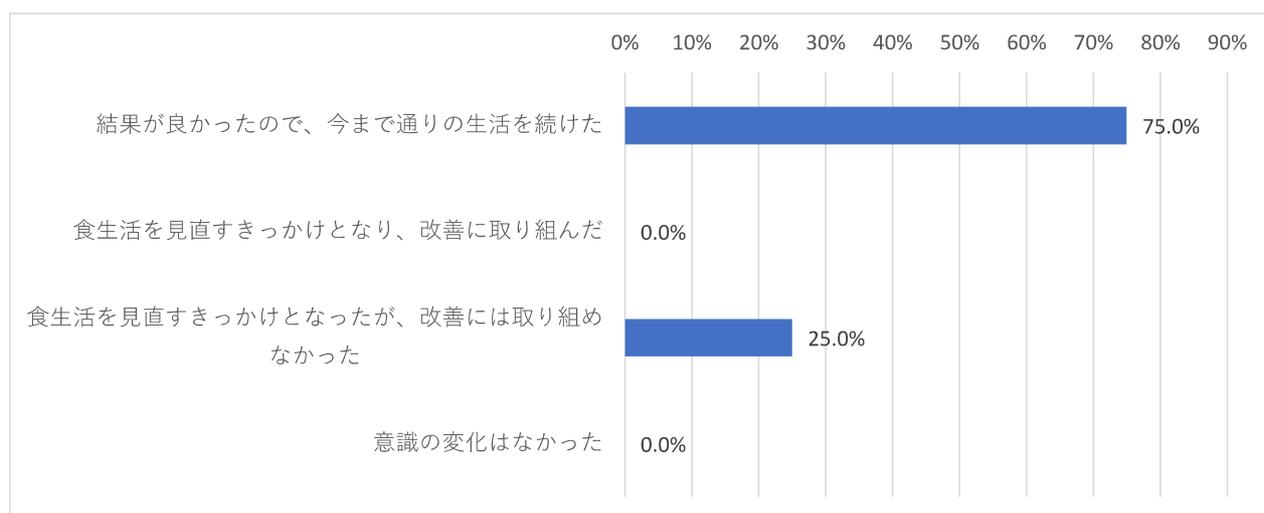
「知らない」が86.5%と最も多く、次いで「知っているが、測定を受けたことはない」が6.0%、「言葉は聞いたことはあるが、内容は知らない」が5.5%となっています。



【問10-1で「知っている、測定を受けたことがある」と答えた方】

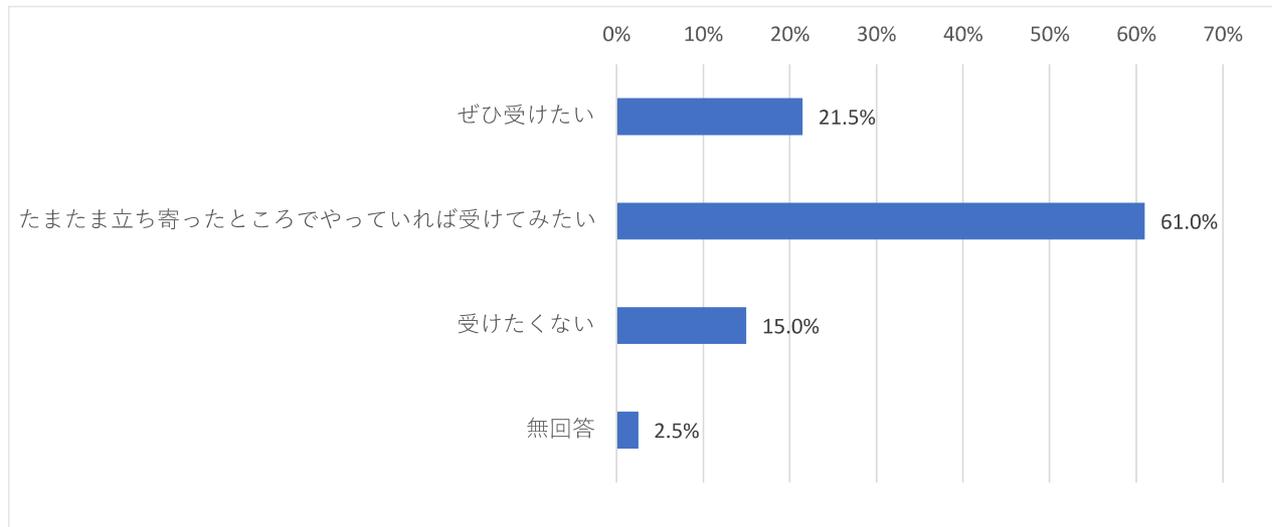
問10-2 尿中ナトリウム比測定に参加後、生活習慣の改善に取り組みましたか。(○は1つ)

「結果が良かったので、今まで通りの生活を続けた」が75.0%と最も多く、次いで「食生活を見直すきっかけとなったが、改善には取り組めなかった」が25.0%となっています。



問10-3 尿中ナトリウム比測定を受けてみたい(すでに受けたことがある方は再度受けたい)と思いませんか。(〇は1つ)

「たまたま立ち寄ったところでやっていたら受けたい」が61.0%と最も多く、次いで「ぜひ受けたい」が21.5%、「受けたくない」が15.0%となっています。



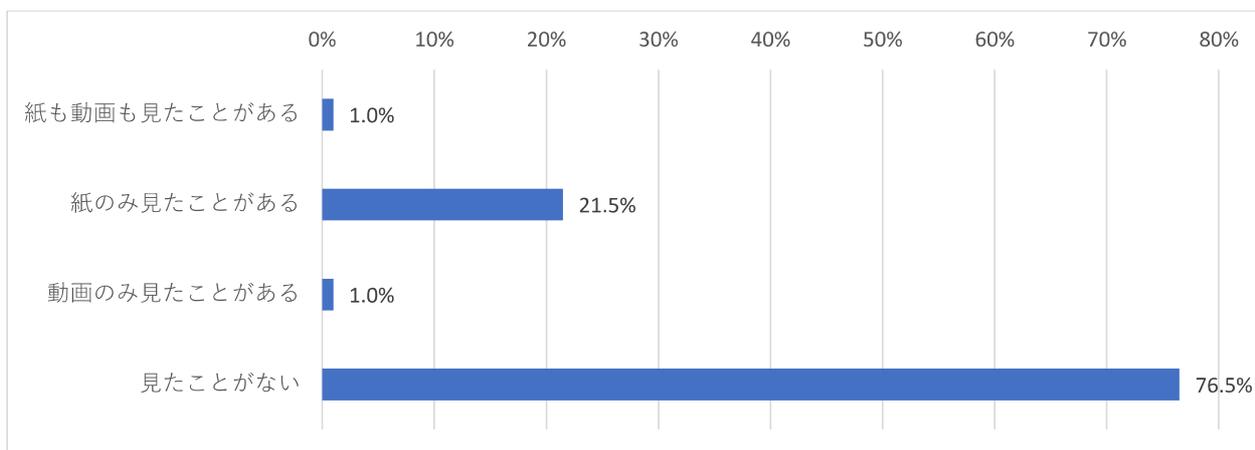
【考察/課題】

- 尿中ナトリウム比測定について「知らない」が86.5%という結果から、測定の認知度が十分でないことがわかります。認知度向上のため測定について広く周知できるよう、広報活動等での情報発信を強化する必要があります。
- 問10-2については、尿中ナトリウム比測定を受けたことがある人が少数であるため、結果に偏りがあると推測されますが、「意識の変化はなかった」との回答はなく、測定が生活習慣について見直すきっかけとなっていることがわかります。
今後は生活習慣の改善を促したい層に対して、測定を実施できる環境を整えることが重要です。
- 「たまたま立ち寄ったところでやっていたら受けたい」「ぜひ受けたい」が82.5%であることから、興味や関心がある人の割合が高いことがわかります。既存の測定場所や機会を活かしながら、働き世代にも参加しやすい仕組みを検討していくことが大切です。

「お手軽野菜レシピ」の認知度

問 1 1 市で作成している「お手軽野菜レシピ」（紙・動画）を見たことはありますか。

「見たことがない」が 76.5%と最も多く、次いで「紙のみ見たことがある」が 21.5%、「紙も動画も見たことがある」「動画のみ見たことがある」は 1.0%で同値でした。



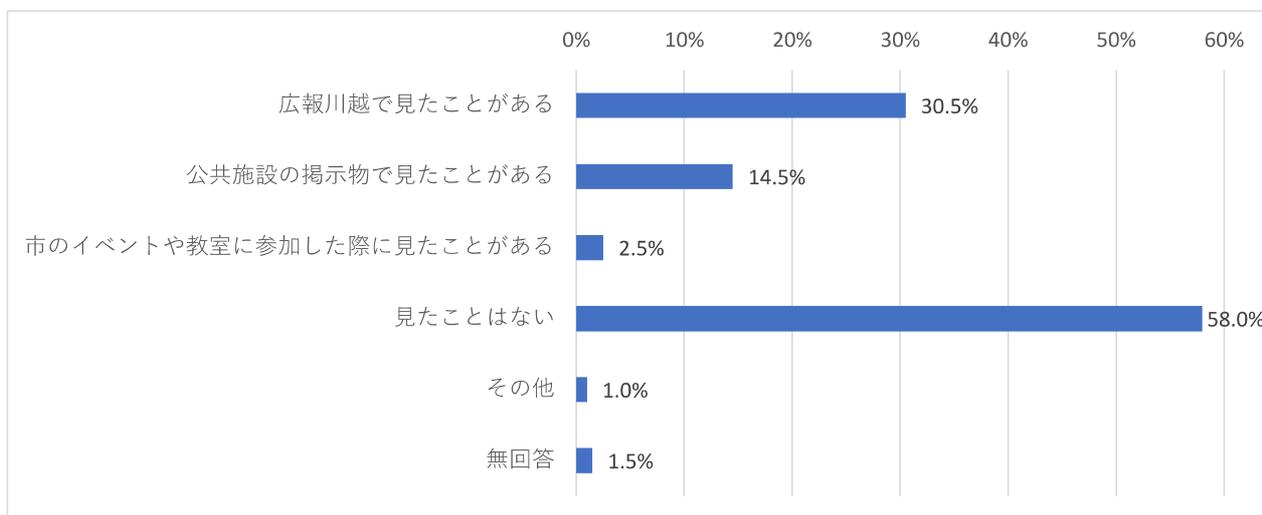
【考察／課題】

- 「見たことがない」が 76.5%という結果から、認知度が十分でないことがわかります。レシピの存在を広く周知するために、現存の広報や SNS に留まらず多彩な方法を活用したプロモーション活動を強化する必要があります。
- 一方で、イベントや教室等ではレシピ動画に関心を示す参加者も多く、今後はこうした機会を通じた周知の強化が有効と考えられます。
- 「紙のみ見たことがある」が 21.5%であることから、動画よりも認知されていることがわかります。これは紙媒体がより広く配布されているか、受け入れやすい形式である可能性を示しています。一方で「動画のみ見たことがある」は 1.0%に留まっており動画コンテンツはほとんど活用されていない状況です。
紙媒体の設置場所の拡充や動画にアクセスしやすい環境を整えることが求められています。

健康情報の啓発効果

問12 市の広報やポスターなどで、「健康的な食生活」に関する情報を見たことはありますか。
(〇はいくつでも)

「見たことはない」が58.0%と最も多く、次いで「広報川越で見たことがある」が30.5%、「公共施設の掲示物で見たことがある」が14.5%となっています。



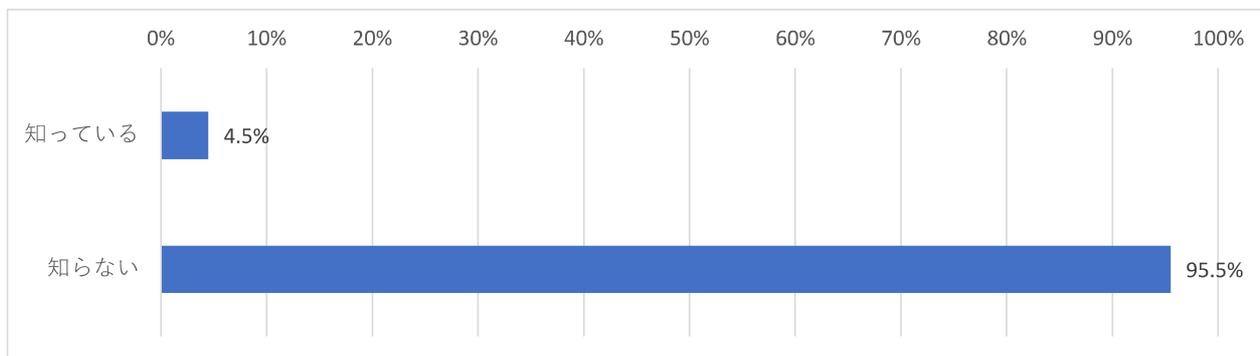
【考察／課題】

- 「見たことがない」が58.0%という結果から、情報の到達度が低いことが示されています。市民全体に情報を届けるためには、多様なメディアを活用した情報発信を強化して若年層にも訴求する戦略が重要です。
- 「広報川越で見たことがある」が30.5%であることから、広報は一定の市民に対して情報を届けることができることがわかります。しかし全体の認知度を考えると、さらなる改善が必要です。広報や公共施設の掲示板以外の方法を検討することも視野に入れて、より多くの市民にリーチすることが求められています。
- 現状では届いていない層に対して、ターゲットを絞った情報発信を行う必要があります。また、情報提供の内容を見直し、視覚的に魅力的なデザインや具体的なメリットを提示することで情報の受容性を高めることができます。

川越市健康づくり協力店

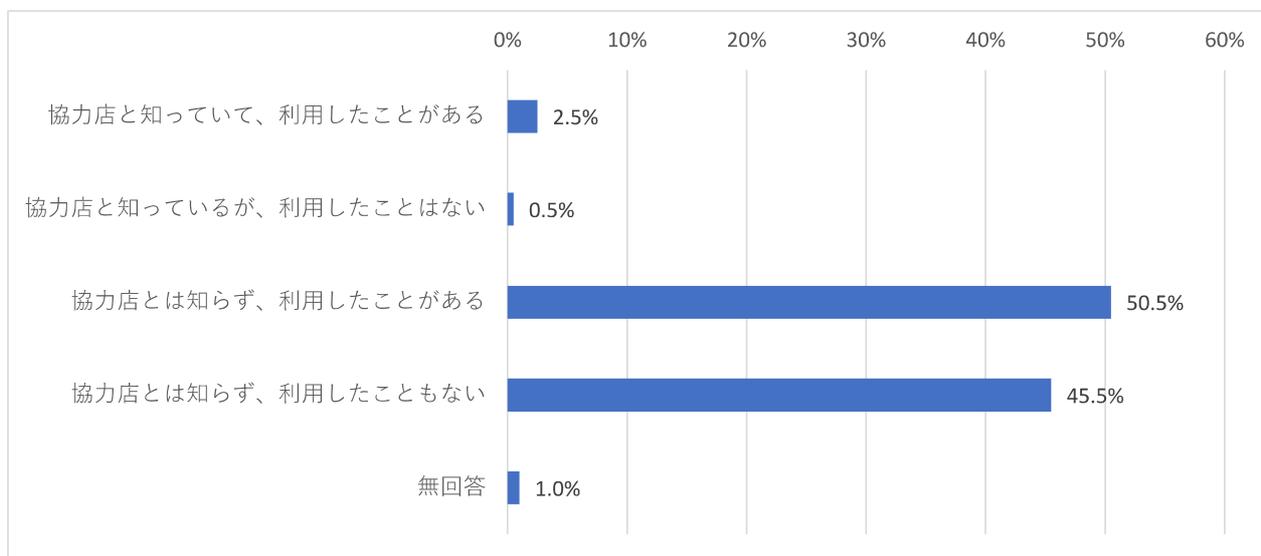
問 1 3 - 1 「川越市健康づくり協力店」制度をご存じですか。(○は1つ)

「知っている」が4.5%、「知らない」が95.5%となっています。



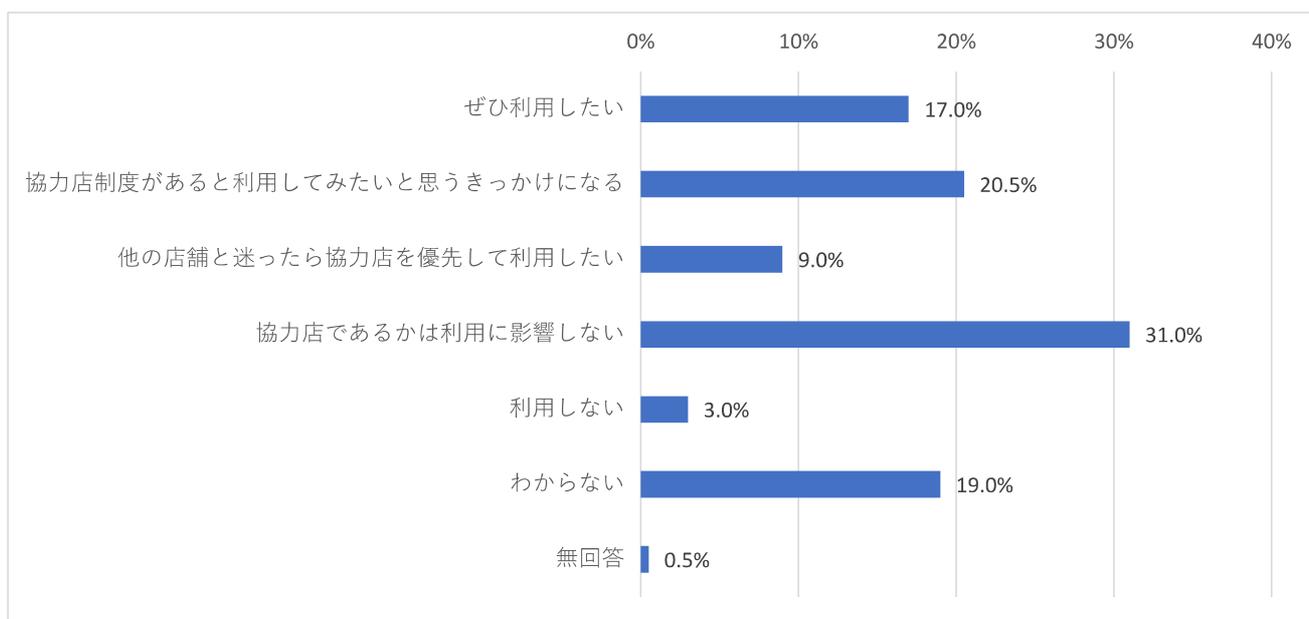
問 1 3 - 2 「川越市健康づくり協力店」を利用したことはありますか。(○は1つ)

「協力店とは知らず、利用したことがある」が50.5%と最も多く、次いで「協力店とは知らず、利用したこともない」が45.5%となっています。



問13-3 「川越市健康づくり協力店」を利用してみたいと思いますか。(○は1つ)

「協力店であるかは利用に影響しない」が31.0%と最も多い結果でした。「ぜひ利用したい」が17.0%、「協力店制度があると利用してみたいと思うきっかけになる」が20.5%、「他の店舗と迷ったら協力店を優先して利用したい」が9.0%と、5割弱の方は協力店制度が店舗の利用に影響していることがわかります。



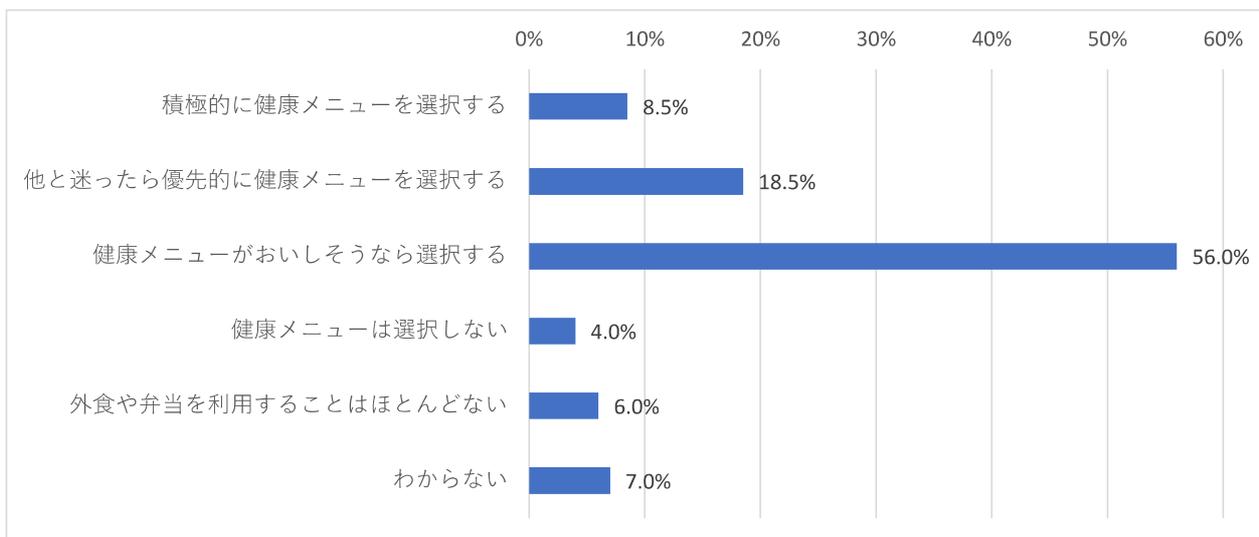
【考察／課題】

- 令和3年11月より開始した川越市健康づくり協力店の認知度はまだ低く、市民の認知度向上と協力店の利用を促すため、関係課等と連携し、効果的な周知方法の検討が必要です。
- 協力店について、「ぜひ利用したい」「協力店制度があると利用してみたいと思うきっかけになる」「他の店舗と迷ったら協力店を優先して利用したい」との回答で5割弱を占めており、協力店の認定を受けていることが、市民の店舗利用を後押しするきっかけとなることがわかります。
- 市民の認知度が上がることで、協力店の利用が増え、市民の健康づくりに繋がるのが考えられます。また、店舗にとって協力店の認定を受けるメリットとなり、さらなる協力店の増加にもつながることが期待されます。

商品の選択

問14 外食や弁当を購入する際、健康メニューや健康弁当（野菜たっぷり、減塩、栄養バランスなど）が提供されている場合はその商品を選択しますか。（〇は1つ）

「健康メニューがおいしそうなら選択する」が56.0%と最も多く、次いで「他と迷ったら優先的に健康メニューを選択する」が18.5%、「積極的に健康メニューを選択する」が8.5%となっており、これらを合わせた『選択する』で83.0%を占めています。



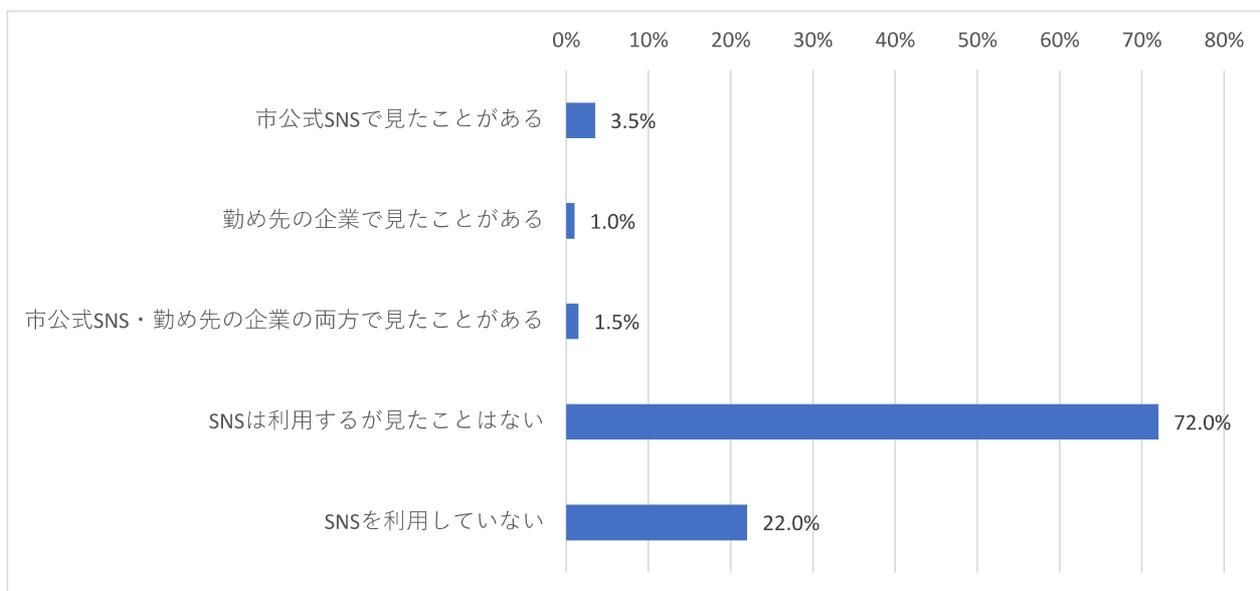
【考察／課題】

- 『選択する』と回答した方が8割以上を占め、健康メニューが提供されていれば、選択する可能性がある人が多いことがわかります。
- 「健康メニューがおいしそうなら選択する」と答えた方が最も多く、健康への配慮とともに、おいしさや見た目が商品選択の重要な要素であると考えられます。
- 多くの方が健康メニューの選択に前向きであることから、市内で健康メニューを提供する店舗が増加することが望まれます。協力店を中心に、健康メニューの提供を促す取組が有効であると考えられます。

食育情報の配信

問15 市では、毎月19日（食育の日）に、市民向けに市公式 SNS（X、Facebook、LINE）や、市内一部企業あてに健康情報を発信しています。これらを見たことはありますか。（〇は1つ）

「SNS は利用するが見たことはない」が 72.0%と最も多く、次いで「SNS を利用していない」が 22.0%となっています。



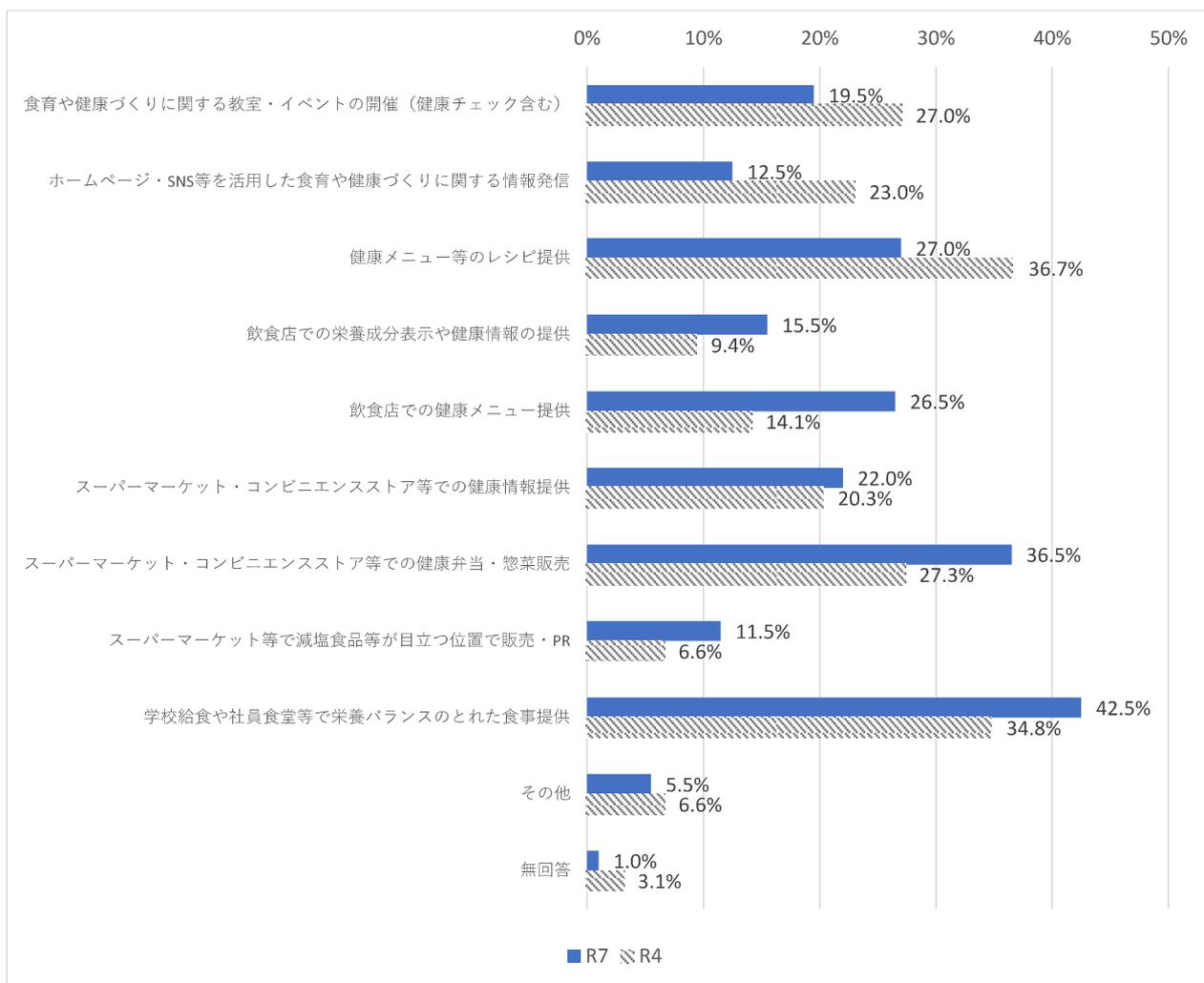
【考察／課題】

- SNS の利用は7割を超えているものの、市公式 SNS からの健康情報が市民の目に触れていない現状です。
- 健康情報の配信を行う企業数の増加を図ることで、働き世代への情報提供に繋がると考えられるため、引き続き企業へのアプローチを実施することが必要です。
- SNS を利用していても市の情報を受け取っていない市民へアプローチするため、官民連携した啓発方法を検討するとともに、SNS を利用していない市民も2割程いることを考慮し、広報やチラシ等、従来の啓発を継続するとともに、その情報をより多くの市民に届ける必要があります。

健康づくりに関する市への要望

問16 健康づくりのために、市でどのようなことに重点的に取り組んでほしいですか。
(〇は3つまで)

「学校給食や社員食堂等で栄養バランスのとれた食事提供」が42.5%と最も多く、次いで「スーパーマーケット・コンビニエンスストア等での健康弁当・惣菜販売」が36.5%、「健康メニュー等のレシピ提供」が27.0%、「飲食店での健康メニュー提供」が26.5%となっています。



その他の意見

- ・健康メニューや協力店での割引、低価格化（2）
- ・新しい形でのレシピ提供
- ・給食時間の確保
- ・健康診断の促進
- ・健康づくりは各自で取り組むべき
- ・協力店の増加
- ・オーガニック食材を使った給食
- ・規格外野菜の格安提供
- ・テレビでの情報提供
- ・特になし、興味が無い（2）

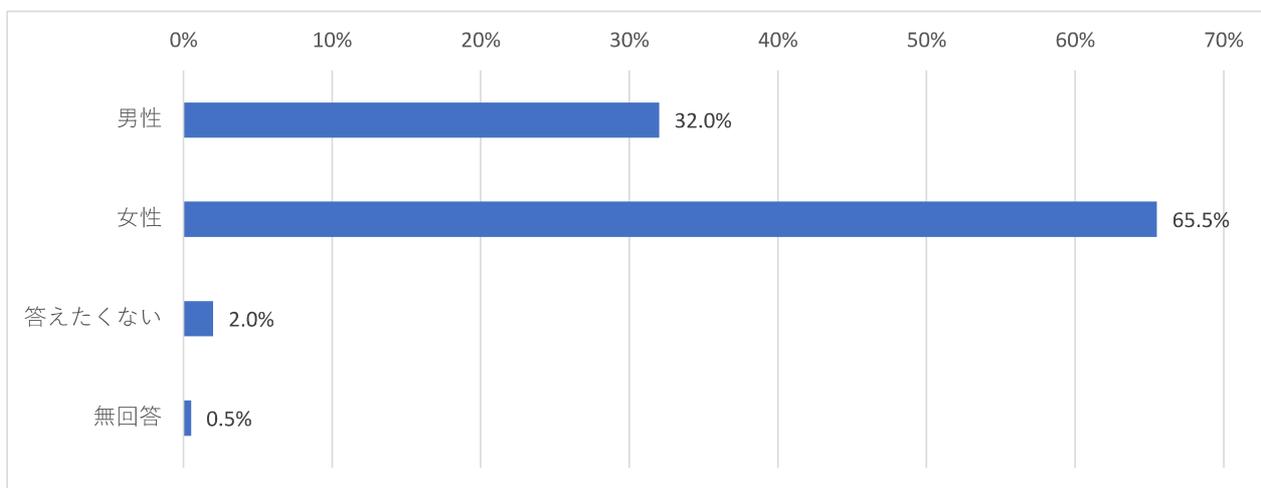
【考察／課題】

- 令和4年度のアンケート結果では、「健康メニュー等のレシピ提供」が36.7%、「学校給食や社員食堂等で栄養バランスのとれた食事提供」が34.8%、「スーパーマーケット・コンビニエンスストア等での健康弁当・惣菜販売」が27.3%、「食育や健康づくりに関する教室・イベントの開催（健康チェック含む）」が27.0%でした。
今回は、「学校給食や社員食堂でのバランスのとれた食事提供」「スーパーマーケット・コンビニエンスストア等での健康弁当・惣菜販売」を望む声が増加しており、市に対して、自然に健康になれる食環境づくりが求められています。
- 学校給食についてはさらに連携を図ること、社員食堂においては、すでに行っている介入の好事例を基に、企業へアプローチを進める必要があります。
- スーパーマーケット、コンビニエンスストア等に関しては、「健康弁当・惣菜販売」が多い結果でした。川越市健康づくり協力店登録を通して、連携が望まれます。

基本的な属性

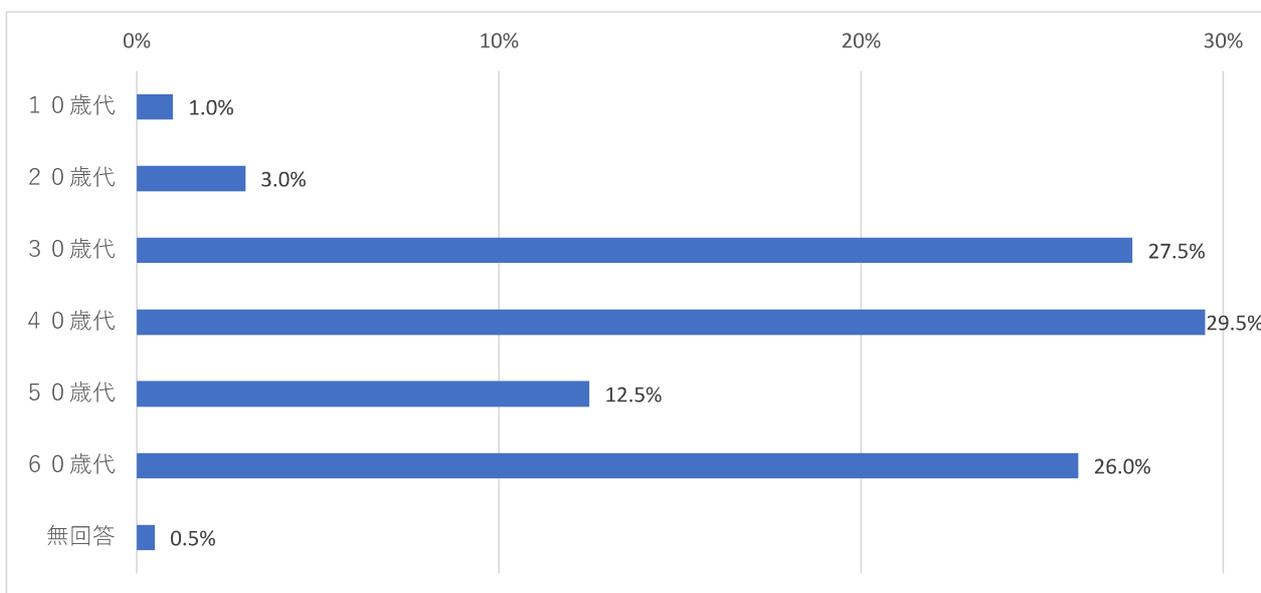
問17 性別をお答えください。(〇は1つ)

「女性」が65.5%、「男性」が32.0%となっています。



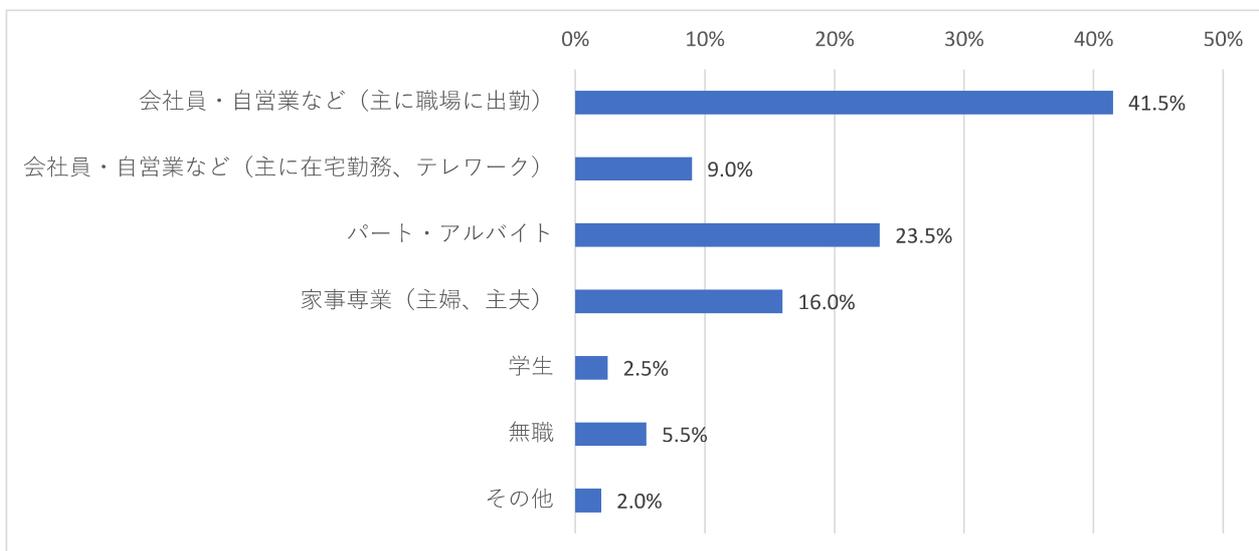
問18 年代をお答えください。(〇は1つ) (令和7年7月1日現在)

「40歳代」が29.5%で最も多く、次いで「30歳代」27.5%、「60歳代」26.0%となっています。



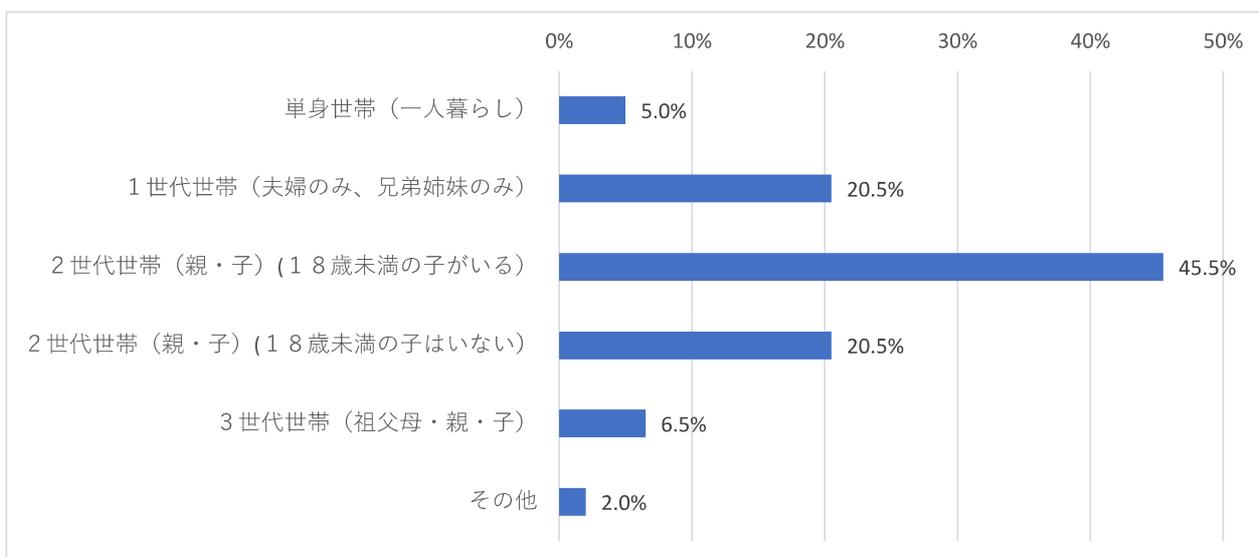
問19 主な仕事（職業）をお答えください。（〇は1つ）

「会社員・自営業など（主に職場に出勤）」が41.5%と最も多く、次いで「パート・アルバイト」が23.5%、「家事専業（主婦、主夫）」が16.0%となっています。



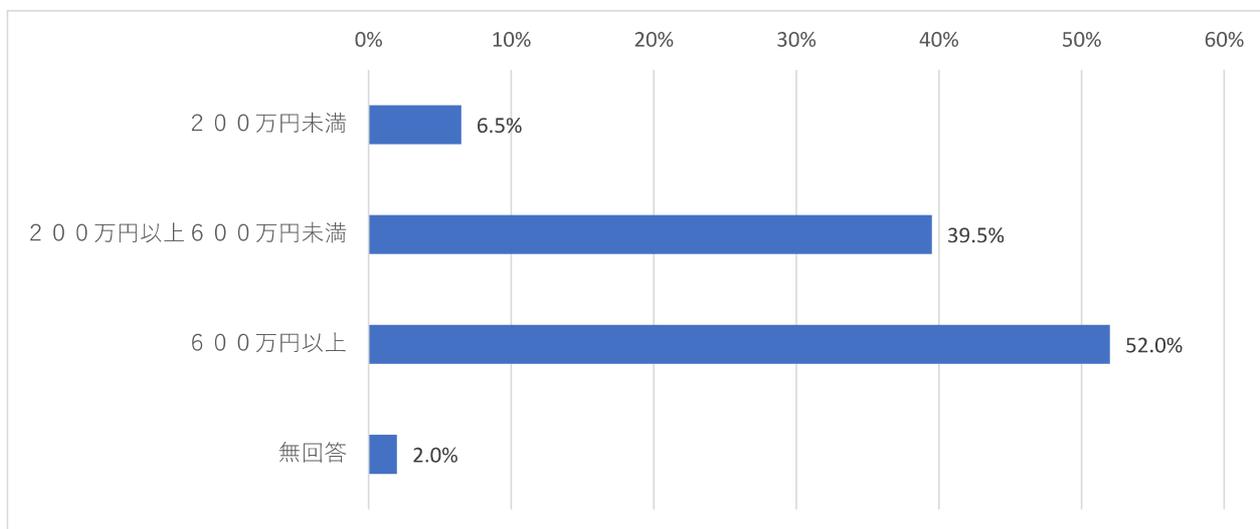
問20 同居家族の構成についてお答えください。（〇は1つ）

「2世代世帯（親・子）（18歳未満の子がいる）」が45.5%と最も多く、次いで「1世代世帯（夫婦のみ、兄弟姉妹のみ）」と「2世代世帯（親・子）（18歳未満の子はいない）」がともに20.5%となっています。



問 2 1 世帯年収は、どれに該当しますか。(〇は1つ)

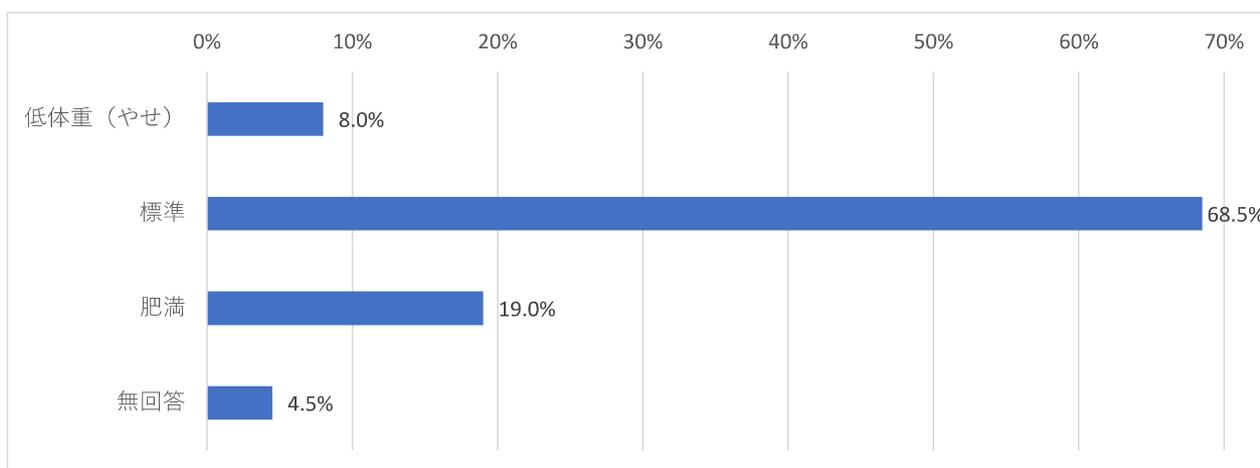
「600万円以上」が52.0%と最も多く、次いで「200万円以上600万円未満」が39.5%となっています。



問 2 2 身長と体重をご記入ください。(小数点第1位を四捨五入)

身長と体重からBMI※を算出すると、「標準」が68.5%と最も多く、次いで「肥満」が19.0%、「低体重(やせ)」が8.0%となっています。

30歳代、50歳代、60歳代では「肥満」が2割を超えています。「低体重(やせ)」は若い世代で多くみられるとともに、60歳代でもやや多い結果でした。



※BMI (BodyMassIndex) は次の計算により求められる数値で、BMIが18.5未満は「低体重(やせ)」、18.5以上25.0未満は「標準」、25.0以上は「肥満」とされています。

$$\text{BMI} = \text{体重 (kg)} \div \text{身長 (m)} \div \text{身長 (m)}$$

大東地区市民の健康・食生活に関するアンケート調査 ご協力をお願い

日ごろ皆様には、市政発展のためにご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。

さて、本市では、令和7年3月に「いつまでも いきいきと 健やかに暮らせるまち 小江戸川越」をスローガンに健康寿命の延伸を目指し、「健康かわごえ推進プラン（第3次）」を策定し、健康づくりの取組を推進しております。

このアンケートは、令和4年度より取組を進めている、市民の皆様が健康づくりに関する正しい情報と適切な食品を入手しやすい環境づくりについて、取組の効果を始めとする実態把握を行い、今後のより良い取組につなげることを目的として実施するものです。

お忙しいところ大変恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようよろしくお願い申し上げます。

令和7年7月
川越市長 森田 初恵

- 調査結果は、統計的に処理いたします。ご回答いただいた内容から個人が特定されることは一切ございません。

記入にあたって

- アンケートの宛名の方がお答えください。
- 記入については、令和7年7月1日を基準としてください。
- それぞれの質問について、あてはまる項目の番号に○印を付けてください。
- お答えのうち、（ ）の中には、その内容を具体的にご記入ください。
- ご記入を済ましたら、この用紙を同封の返信用封筒に入れ、**令和7年8月12日（火）**
（必着）までにご返送ください。（切手不要）
- この調査は、スマートフォンやパソコンでの**オンライン回答も可能**となっています。
右の二次元コード又は、川越市ホームページの「さがす」から
ページ ID で検索していただき、ご回答をお願いします。
※オンライン回答された方は、調査票の返信は不要です。



<問い合わせ先>

川越市保健所 健康づくり支援課 健康づくり支援担当
電話：049-229-4121 FAX：049-225-1291
E-mail：kenkoshien★city.kawagoe.lg.jp

問 1 - 1 普段から健康に気を付けるように意識していますか。(○は 1 つ)

- 1 健康のために積極的に行っていることがある
- 2 健康のために生活習慣には気を付けるようにしている
- 3 病気にならないように気を付けているが、特に何かを行っているわけではない
- 4 特に意識しておらず、具体的には何も行っていない

**問 1 - 2 【問 1 - 1 で「 1 」または「 2 」とお答えの方】
健康づくりの取組をはじめたのはいつ頃からですか。(○は 1 つ)**

- 1 ずっと前から (若いころから)
- 2 ここ数年以内
- 3 ここ 1 年以内
- 4 わからない

**問 1 - 3 【問 1 - 1 で「 3 」または「 4 」とお答えの方】
健康のために、特に何も行っていない理由は何ですか。(○は 1 つ)**

- | | |
|-----------------------|--------------------|
| 1 何をどのように行ったらよいかわからない | 2 忙しくて時間がない |
| 3 経済的なゆとりがない | 4 健康なので特に何もする必要はない |
| 5 施設や機会がない | 6 健康上の理由からできない |
| 7 一緒にやる仲間がない | 8 特に理由はない |
| 9 その他 () | |

問 2 朝食は食べますか。(○は 1 つ)

- | | |
|----------------|----------------|
| 1 ほとんど毎日食べる | 2 週に 4、5 日は食べる |
| 3 週に 2、3 日は食べる | 4 ほとんど食べない |

問3 それぞれの食事①朝食・②昼食・③夕食に主食・主菜・副菜がそろっていますか。
 (○はそれぞれ1つ) ※図1を参考にしてください。

	毎日 そろっている	週4～6日 そろっている	週2～3日 そろっている	週1日 そろっている	全くそろって いない
① 朝食	1	2	3	4	5
② 昼食	1	2	3	4	5
③ 夕食	1	2	3	4	5



※その他 ^{どんぶり} 丼 (主食+主菜) と小鉢 (副菜) の組み合わせなど

問4 野菜の入った料理を1日に平均何皿食べますか。(○は1つ)
 ※片手にのる位の小鉢(約70g:握りこぶし1つ程度)を1皿と考えてください。
 野菜がメインとなる料理は2皿と考えてください。



1 食べない	2 1皿	3 2皿
4 3皿	5 4皿	6 5皿以上

問5 食塩の摂取量について気を付けていますか。(○は1つ)

1 いつも気を付けている	2 時々気を付けている
3 あまり気を付けていない	4 ほとんど気を付けていない

問6 食生活について、気を付けている事はありますか。(○はいくつでも)

- | | |
|-----------------|--------------------------|
| 1 1日3食かかさず食べる | 2 間食を控えている |
| 3 野菜を意識して食べる | 4 主食・主菜・副菜のバランスの整った食事をとる |
| 5 塩分を控える | 6 誰かと一緒に食事をする |
| 7 食事の前後にあいさつをする | 8 特にない |
| 9 その他 () | |

**問7 昼食についてお伺いします。
普段(平日)は、どのような昼食をとっていますか。(○は1つ)**

- | | |
|--------------------------|---------------------------------|
| 1 自分で作った食事や弁当 | 2 家族等が作った食事や弁当 |
| 3 飲食店で外食 | 4 コンビニやスーパーマーケット、弁当店等で購入した弁当・惣菜 |
| 5 出前、デリバリーした食事 | 6 社員食堂、学生食堂 |
| 7 給食、ケータリング等、自分以外が用意した食事 | 8 昼食は食べない |
| 9 その他 () | |

問8 自炊以外の食事(外食、弁当や惣菜、フードデリバリーサービス等)をとる頻度はどのくらいですか。(○は1つ)

- | | | |
|-----------|--------|---------|
| 1 毎日2回以上 | 2 毎日1回 | 3 週4~6回 |
| 4 週2~3回 | 5 週1回 | 6 週1回未満 |
| 7 全く利用しない | | |

**問9-1 下記^{ポップ}POPを見たことはありますか。
(コンビニエンスストア、スーパーマーケット等の商品棚に設置)**



- | | |
|-----------|-----------|
| 1 見たことがある | 2 見たことがない |
| 3 わからない | |

ポップ
問9-2 POPの設置は、購買行動に影響がありますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------------------|--------------------------------|
| 1 普段から野菜を含む商品を購入している | 2 POPを見て、野菜を含む商品を購入した(購入すると思う) |
| 3 購入には繋がらないが、野菜の必要性を感じる | 4 野菜の必要性を感じず、購入もしなかった |

問10-1 「尿中ナトリウム測定」を知っていますか。(○は1つ)

(尿中ナトリウムとは、尿中のナトリウムとカリウムのバランスを数値で表し、高血圧リスクの高い食生活になっていないかを測定するもの。少量の尿で短時間で簡易測定可能。)

- | | |
|------------------------|----------------------|
| 1 知っていて、測定を受けたことがある | 2 知っているが、測定は受けたことがない |
| 3 言葉は聞いたことはあるが、内容は知らない | 4 知らない |

問10-2 【問10-1で「1」と答えた方】

尿中ナトリウム測定に参加後、生活習慣の改善に取り組みましたか。(○は1つ)

- | | |
|---------------------------------|---------------------------|
| 1 結果が良かったので、今まで通りの生活を続けた | 2 食生活を見直すきっかけとなり、改善に取り組んだ |
| 3 食生活を見直すきっかけとなったが、改善には取り組めなかった | 4 意識の変化はなかった |

問10-3 尿中ナトリウム測定を受けてみたい(すでに受けたことがある方は再度受けてみたい)と思えますか。(○は1つ)

- | | |
|------------|-----------------------------|
| 1 ぜひ受けてみたい | 2 たまたま立ち寄ったところでやっていたら受けてみたい |
| 3 受けたくない | |

問11 市で作成している「お手軽野菜レシピ」(紙・動画)を見たことはありますか。



↑ (紙ベース/公民館等で配布)



↑ (動画/市公式ホームページ、YouTubeにて公開)

- | | |
|-----------------|---------------|
| 1 紙も動画も見ただことがある | 2 紙のみ見ただことがある |
| 3 動画のみ見ただことがある | 4 見ただことがない |

**問 1 2 市の広報やポスターなどで、「健康的な食生活」に関する情報を見たことがありますか。
(○はいくつでも)**

- | | |
|---------------------------|--------------------|
| 1 広報川越で見たことがある | 2 公共施設の掲示物で見たことがある |
| 3 市のイベントや教室に参加した際に見たことがある | 4 見たことはない |
| 5 その他 () | |

健康メニューの販売や健康情報の提供を行い、市民の健康づくりをサポートする店舗を認定する「川越市健康づくり協力店」制度について伺います。



↑協力店には目印でステッカーが設置されています



↑協力店での野菜たっぷりメニュー提供



↑協力店では健康情報も配布しています（一例）

参考：＜登録店舗（営業終了店舗も含む）＞

ゆるりcafé、DiningCafe1g、COMECAFE、グリーンカフェ、ヒロマルシェキッチン、養生めし菜の香、パウンドケーキ工房 Cocone、カウンターおばんざい和ら、マミーマート神明町店、生鮮市場 TOP 川越店、ベルク（市内6店舗）、イトーヨーカドー食品館川越店、川越総合卸売市場、富士フィルム和光純薬株式会社（社員食堂・社員のみ利用可）

問 1 3-1 「川越市健康づくり協力店」制度をご存じですか。（○は1つ）

- | | |
|---------|--------|
| 1 知っている | 2 知らない |
|---------|--------|

問 1 3-2 「川越市健康づくり協力店」を利用したことはありますか。（○は1つ）

- | | |
|-----------------------|------------------------|
| 1 協力店と知っていて、利用したことがある | 2 協力店と知っているが、利用したことはない |
| 3 協力店とは知らず、利用したことがある | 4 協力店とは知らず、利用したこともない |

問 1 3-3 「川越市健康づくり協力店」を利用してみたいと思いますか。（○は1つ）

- | | |
|--------------------------|------------------------------|
| 1 ぜひ利用したい | 2 協力店制度があると利用してみたいと思うきっかけになる |
| 3 他の店舗と迷ったら協力店を優先して利用したい | 4 協力店であるかは利用に影響しない |
| 5 利用しない | 6 わからない |

問 1 4 外食や弁当を購入する際、健康メニューや健康弁当（野菜たっぷり、減塩、栄養バランスなど）が提供されている場合はその商品を選択しますか。（○は1つ）

- | | |
|-----------------------|-------------------------|
| 1 積極的に健康メニューを選択する | 2 他と迷ったら優先的に健康メニューを選択する |
| 3 健康メニューがおいしそうなら選択する | 4 健康メニューは選択しない |
| 5 外食や弁当を利用することはほとんどない | 6 わからない |

問 1 5 市では、毎月19日（食育の日）に、市民向けに市公式 SNS（X、Facebook、LINE）や、市内一部企業あてに健康情報を発信しています。これらを見たことはありますか。（○は1つ）



↑市公式 X、Facebook



↑市公式 LINE



↑添付画像 ※一例

- | | |
|-----------------------------|---------------------|
| 1 市公式 SNS で見たことがある | 2 勤め先の企業で見たことがある |
| 3 市公式 SNS・勤め先の企業の両方で見たことがある | 4 SNS は利用するが見たことはない |
| 5 SNS を利用していない | |

問 1 6 健康づくりのために、市でどのようなことに重点的に取り組んでほしいですか。（○は3つまで）

- | |
|-------------------------------------|
| 1 食育や健康づくりに関する教室・イベントの開催（健康チェック含む） |
| 2 ホームページ・SNS 等を活用した食育や健康づくりに関する情報発信 |
| 3 健康メニュー等のレシピ提供 |
| 4 飲食店での栄養成分表示や健康情報の提供 |
| 5 飲食店での健康メニュー提供 |
| 6 スーパーマーケット・コンビニエンスストア等での健康情報提供 |
| 7 スーパーマーケット・コンビニエンスストア等での健康弁当・惣菜販売 |
| 8 スーパーマーケット等で減塩食品等が目立つ位置で販売・PR |
| 9 学校給食や社員食堂等で栄養バランスのとれた食事提供 |
| 10 その他（ ） |

問 1 7 性別をお答えください。（○は1つ）

- | | | |
|------|------|----------|
| 1 男性 | 2 女性 | 3 答えたくない |
|------|------|----------|

問 1 8 年代をお答えください。(○は 1 つ) (令和 7 年 7 月 1 日現在)

1 10 歳代	2 20 歳代	3 30 歳代	4 40 歳代
5 50 歳代	6 60 歳代		

問 1 9 主な仕事(職業)をお答えください。(○は 1 つ)

1 会社員・自営業など(主に職場へ出勤)	2 会社員・自営業など(主に在宅勤務、テレワーク)
3 パート・アルバイト	4 家事専業(主婦、主夫)
5 学生	6 無職
7 その他()	

問 2 0 同居家族の構成についてお答えください。(○は 1 つ)

1 単身世帯(一人暮らし)	2 1 世代世帯(夫婦のみ、兄弟姉妹のみ)
3 2 世代世帯(親・子) (18 歳未満の子がいる)	4 2 世代世帯(親・子) (18 歳未満の子はいない)
5 3 世代世帯(祖父母・親・子)	6 その他()

問 2 1 世帯収入は、どれに該当しますか。(○は 1 つ)

1 200 万円未満	2 200 万円以上 600 万円未満	3 600 万円以上
------------	---------------------	------------

問 2 2 身長と体重をご記入ください。(小数点第 1 位を四捨五入) ※適正体重を算出するためのものです

1 身長() cm	2 体重() kg
------------	------------

アンケートは以上です。ご協力いただきありがとうございました。

(1) 第9章「自然に健康になれる環境づくり」における取組について

ア 健康づくりを推進するための関係機関・団体等と連携の強化

① 背景

川越市では、現在、健康づくりを推進するために様々な団体が連携・協力して市民の健康づくりに取り組んでいます。

健康かわごえ推進プラン（第3次）において、地域・社会全体で、日常生活の中で自然に健康的な行動を取り入れることができるような環境づくりに努めることとなっていることから、一層、地域で活動する関係機関や団体との連携や協働が不可欠であると考えています。

② 提案内容

【案1】 各種団体の活動内容の把握

計画策定において、「健康づくりに関する取組や課題について」各団体にヒアリングを実施し、計画に反映しました。

引き続き、各団体の活動をヒアリングし、活動内容や課題を把握し、新たな活動の可能性を探っていきます。

【案2】 団体間の情報交換

健康づくり推進協議会議において、定期的に各団体の活動内容の報告や健康課題、各団体に関連するトピックなどの情報提供や意見交換を行います。

これにより、団体間の活動内容を共有し、相互理解を深めることで、関係の構築や連携のきっかけを作ることを目指します。

【案3】 各団体の専門情報やスキルを地域へ還元する

すでに、健康まつりにおいて、各団体の皆様の健康に関する専門の情報や体験を通じての健康づくりを推進していただいております。「各団体のブースが充実している」「専門の方に相談にのってもらえた」「普段聞けないことが聞けた」など、好評を得ています。

広く市民に各団体の専門情報やスキルを地域へ還元できるよう、実施方法を含めて検討します。

【案4】各団体間の連携の推進

市が情報収集した健康課題や各団体における活動の課題を参考に市が仲介役となり、健康づくりに関する団体の連携や情報交換の場を提供するなどコラボレーションを促進します。

【案5】各団体の健康に関する情報の提供方法について

現在、健康づくりに関する情報は紙による媒体やホームページやSNSなどのデジタル化した情報などがあります。また、団体の皆様が発行する情報などもあります。

多くの市民に提供できるよう情報提供の方法を検討します。（詳細はイ健康情報の啓発へ）

③ 期待される効果

i. 団体間の連携強化

情報提供や報告の場を通じて、団体間の連携が強化され、共同での取組が活発化します。

ii. 市民の健康意識向上

専門性の高い健康情報の提供により、市民の健康意識が高まり、健康的なライフスタイルの実践が促進されます。

iii. 地域全体の健康増進

団体間のコラボレーションにより、地域全体での健康づくりの取組の活性化が期待されます。

iv. 情報アクセスの向上

健康情報を集約したり、共有したりすることで幅広い世代が容易に健康情報にアクセスできるようになり、健康への関心が高まることが期待されます。

イ 健康情報の啓発

- ① 既にある記事など媒体の有効活用
- ② 団体からの情報提供
- ③ ホームページの活用
- ④ 公共施設での健康情報発信
- ⑤ LINEアカウントにおける健康情報の登録案内